



PMI Japan Chapter
25th Anniversary Book
A celebration of our history



一般社団法人PMI日本支部
創立25周年記念誌

INDEX

会長メッセージ

4 …PMI日本支部 会長 端山 毅

祝 辞

- 5 …PMI本部 Chair, Board of Directors
Jennifer Tharp
PMI Asia Pacific, Regional Managing Director
SoHyun Kang
- 6 …プロジェクトマネジメント学会 会長 関 哲朗
情報サービス産業協会 会長 福永 哲弥
- 7 …日本プロジェクトマネジメント協会 理事長 加藤 亨
日本情報システム・ユーザー協会 会長 大林 剛郎
- 8 …PMI香港 会長 Christine Yau
PMI台湾 会長 Erik Kao
- 9 …PMI韓国 会長 Jung-Soo Kim
PMIモンゴル 会長 Tumentsogt (Tumen) Tsevegmid
- 10 …Founder and Chair PMO GA AMERICO PINTO
itSMF Japan 理事長 西野 弘
- 11 …PMIサンパウロ 会長 Mônica Mancini
PMIハワイ 会長 Yovo Stefanov
- 12 …PMIリージョン9メンター 鍾 一鳴

第1章 25年の振り返り

- 14 …PMI日本支部の25年
- 16 …2018年 主要活動記録
創立20周年記念プログラムを振り返って 浦田 有佳里
- 18 …2019年 主要活動記録
関西ランチ10周年記念セミナー 杉原 秀保
- 20 …2020年 主要活動記録
SDGs スタートアップ研究分科会の始動 稲葉 涼太
- 22 …2021年 主要活動記録
「eventos」と「オープンバッジ」の導入 寺田 尚弘
PMBOK®ガイド第7版 日本語版発刊の裏側 鈴木 安而
- 24 …2022年 主要活動記録
地域セミナーの会場開催再開! 千葉 昌幸
支部 web サイトリニューアル 鬼束 孝則

- 26 …2023年 主要活動記録
創立25周年記念プロモーション活動 永合 由美子
- 28 …回想コラム
コロナ禍の日本支部運営で苦勞したこと 片江 有利

第2章 未来に向けて

- 32 …あれから5年経ちました(2018年の座談会参加者)
- 32 PMツール研究会 代表 野村 和哉
- 33 ソーシャルPM研究会 代表 大久保 剛
- 34 BA研究会 谷 徹也
セミナープログラム 野々市谷 有里
- 35 …未来創造プログラム 組織拡大委員会 杉原 秀保
- 38 …女性コミュニティ発足への思いと女性PMの未来を語る
女性コミュニティ代表 小川原 陽子
女性コミュニティ副代表 永合 由美子
女性コミュニティ副代表 浦田 有佳里
- 40 …PM Award 座談会 PM Award 未来への構想
端山 毅 PMI日本支部 会長
斉藤 学 PMI日本支部 副会長
藤井 新吾 PMI日本支部 理事
藤原 慎 PMI日本支部 理事
片江 有利 PMI日本支部 監事
中村 亜子 PMI日本支部 理事

- 44 …特集:私とプロジェクト
- 44 『ゆるく、つながる。』まちづくりプロジェクト
加部 雅之
- 46 私たちの技術で干瓢農家を支援したい!
小山工業高等専門学校 機械科5年 伊澤研究室
- 48 ママさんバレーボールチーム、PTA現役メンバーによる
試合出場への挑戦
中村 舞衣子
- 50 「アイデアを形にする方法を伝えたい」
米倉 宏晃

第3章 25周年記念施策内容紹介

- 54 …記念施策内容紹介

PMIとは

Project Management Institute, Inc. は、1969年に米国ペンシルバニア州で設立されたプロジェクトマネジメントに関する非営利の専門家団体です。プロジェクトマネジメントの実務慣行と科学の効果的かつ適切な適用を推進するという目的を掲げています。2023年8月末時点で世界中に68万人以上の会員を擁し、80か国以上に300支部を展開するグローバルな組織です。

PMBOK®等のPMI標準は、広く世界中の専門家の支持を集めています。また、PMP®など一連の認定資格を提供しており、世界のPMP®資格者数は146万人に及びます。さまざまなイベントやセミナー、eラーニングコースなど、能力開発の機会を提供するとともに、世界の動向を調査分析し積極的な情報発信を行っています。さらに、多方面にわたる活動を通じて、プロジェクトマネジメントへの理解と関心を高め、専門家としての成長を後押しするとともに、企業や組織の事業上の成功に貢献すべく価値提供を続けています。

PMIの活動の多くは、世界各国支部のボランティアによって実施され、新しい仲間と出会うことでネットワークを広げ、知識と経験を共有する場になっています。

PMI日本支部とは

1998年にPMI, Inc.の支部として「PMI東京支部」が設立されました。その後、2009年に「一般社団法人PMI日本支部」として組織基盤を整えました。PMI, Inc.と理念を共有しその方針や規則に則った活動を展開する契約を締結して、PMI日本支部を名乗ることを許された団体です。PMI, Inc.から会員管理などさまざまな支援と指導を受け、世界の支部と交流しながらプロジェクトマネジメントの発展と普及に努めています。

2023年10月には会員数が6,000人の大台を超え世界第2位の規模に成長しました。標準的な支部の活動を大幅に超える独自施策を多数展開して、PMI, Inc.および多数の支部から注目を集めています。日本国内のPMI会員14,000人およびPMP®等の資格者44,000人に向けた情報発信も行っています。

さらに、会員ボランティアと法人スポンサーに支えられて、多数のイベントを開催しています。研究会や委員会などの部会活動に多くの会員が参加し、自由闊達な議論と幅広い知識と経験の共有を進めており、他支部にはないPMI日本支部独自の運営形態が定着しています。

また、常勤職員による事務局体制を整備して安定的な会員サービスを提供しています。



一般社団法人 PMI 日本支部
会長 端山 毅

歴史を紡ぎ始めたPMI日本支部とともに

1998年、iMacが発売され、Google社が設立されました。1973年、第4次
中東戦争が勃発しオイルショックに見舞われました。1923年は関東大震災が
発生した年でした。今の私に25年前は昨日と大差ありませんが、両親から
戦争の話を聞いていた小学生の私には、25年前は異次元の世界でした。どこ
までが現実で、どこからが歴史なのか、年齢によって大きく異なります。公衆
電話を使ったことがない成人が増大している2023年において、PMI日本支部
の25年を「歴史」として振り返るべき時期に到達したのだと感じております。

歴代会長から直接ご指導頂いた身としては、すべてが生々しい現実です。
いくつもの決断と精励の上に現在があり、献身頂いた方々の顔が浮かびます。
会員ボランティア、スポンサー、登壇者、理事、監事、事務局員と立場はさま
ざまですが、職務を越えた多くの皆さまの熱い思いでプロジェクトマネジメント
の発展と普及を推進していただき、現在に至っています。

PMI日本フォーラムに代表される多数のイベントは、回を重ねて内容が深み
を増し、運営にも工夫を凝らして多くのリピーターを抱えています。研究会、
プログラム、コミュニティなど会員主導で自律的に価値を生み出す部会活動
がPMI日本支部の伝統を築いてきました。部会で活動している会員から生の
声を率直に表明していただくことが、会員増強につながっています。

コロナ禍に見舞われたこの数年の間にも、PM Awardの創設、プロジェクト
マネジメント研究報告の発行、PM適応領域の拡大を目指したコミュニティの
組成など、新たな活動が始動しました。メルマガの充実と支部ウェブサイトの
刷新以外にも、情報の表現や発信の面でも多くの方々の創意工夫と情熱が形
になりました。

PMI本部、特にPMIアジア太平洋オフィスとは日常的に連携するようになり
ました。本誌に多数の祝辞を頂戴しているように、近隣支部や関連団体との
協力も深まっています。会員数は6,000人を超えて世界第2位の巨大支部と
なり、影響力と責任も拡大しています。

DX、気候変動、人口動態の変化、国際情勢の緊迫、DE&Iなど、我々は不安
定な状況で複雑な問題に直面しています。一方で、科学技術の進歩が加速し
人類史が新たな段階に突入しつつあると、明るい未来を夢見ることも可能です。
問題解決にも未来への挑戦にも、プロジェクトマネジメントが重要性を増し
ています。プロジェクトマネジメントの専門家一人ひとりと、その交流と研鑽
を促進する団体のどちらもが社会的責務を果たしていかなければなりません。

四半世紀を振り返るとき、豊富な知識と実務経験の価値、広い視野と多様な
視座が編み出す創造性、高い倫理性と細やかな心遣い、そして歴史から学ぶ
謙虚な態度など、人間に備わった能力を集団として発揮することの素晴らし
さが輝いて見えます。PMI日本支部は、培ってきた伝統の上に歴史を紡ぎ、
これからもプロジェクトマネジメントの発展と普及に貢献し、会員が求める
価値の創出に努めて参ります。関係者の皆さまの変わらぬご支援、協力をお
願い申し上げます。

Celebrating 25 Years of Excellence

On behalf of the PMI Board of Directors, I would like to extend my heartfelt congratulations
to the PMI Japan Chapter as it celebrates a quarter century of excellence.

With more than 5,800 members, the PMI Japan Chapter stands as the second largest among
the 300 PMI chapters worldwide. This remarkable growth is a testament to the chapter's
persistent advocacy for project management excellence. Furthermore, the impressive
count of over 43,000 PMP certification holders in Japan showcases the chapter's significant
contribution to fostering a highly skilled project management workforce.

Over the past 25 years, the PMI Japan Chapter has continuously thrived, establishing three
branches and cultivating over 40 study groups and communities. By actively promoting
project management across industries, the chapter has played a pivotal role in driving the
profession's growth and fostering a vibrant project management community.

The chapter's role in developing and promoting project management has never been more
vital. In an interconnected world in which professionals from diverse cultural backgrounds
collaborate across borders, PMI's knowledge base and comprehensive resources empower
project practitioners to navigate and overcome the ever-expanding range of challenges
faced by society.

As we celebrate this achievement, let us also look forward to an even brighter future, as the
chapter continues to lead, inspire, and shape the future of project management in Japan.

Best regards,
Jennifer Tharp, PMI Board of Directors



Jennifer Tharp
Chair,
PMI Board of Directors

Together we can- Onward and Upwards to the Next 25 Years

I am pleased to celebrate the 25th anniversary of our second-largest chapter worldwide.
It is a proud moment for me, and I am grateful to every member, volunteer, and the entire
community in Japan that has helped us achieve growth and momentum in the country.

Over the last two and a half decades, we have seen the spectacular evolution of project
professionals in Japan. From a few members, we have grown into a vibrant community
with over 44,500 active certifications, over 13,500 PMI members, and 5,800 chapter
members.

Japan is a strategic growth country for PMI globally and in Asia Pacific. Our chapters are
key drivers for community growth, learning, and providing opportunities for upskilling to
project professionals. PMI Japan chapter has been very close to our community. Its activities
are supported by numerous volunteer members, corporations, government agencies, and
educational institutions. Our members, chapter leaders, and volunteers have shaped our
success in this part of the world. Kudos to each one of you for your dedication and hard
work.

Looking into the future, we are amidst a digital revolution which is being witnessed in all
industries in Japan. Digital transformation (DX) is at the core of every company, irrespective
of the nature of business. Amidst this transformation, a project manager's role is evolving
and becoming even more critical.

As we move forward, I foresee project professionals in Japan playing a more strategic role
in making digital transformation a reality. We at PMI aim to empower our community in
Japan to make this idea a reality. Together we can carve a brighter future.



SoHyun Kang
Regional Managing
Director, PMI Asia Pacific



一般社団法人
プロジェクトマネジメント
学会
International Project
Management
Association (IPMA)
Japan Representative
会長 関 哲朗

創立25周年、おめでとうございます

創立25年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

四半世紀は事実として刹那であり、一方で多くの出来事に印象づけられた25年でもありました。東日本大震災や熊本地震、コロナ禍といった天災、そして、ロシアによるウクライナ侵攻といった人災など、どうしても負の側面が先に思い出されてしまいます。そして、これらの出来事は、プロジェクトマネジメントの在り方にも強い影響を与えています。

私たちがこれらの出来事を振り返るときに、真っ先に思い浮べる言葉は「無力」です。プロジェクトマネジメントは計画と障害の克服をマネジメントすることを専らとしているのに、突然現れたリスクの大海に飛び込み、私たちの存在を印象付けることはできませんでした。加えて、その後の社会変化にも明確な答えを出せていません。コロナ禍以前には当たり前だったコロナケーション。偶発的コミュニケーションの誘発によって共創と協働を支えてきた場合は、働き方改革の名の下に体良くお払い箱になりました。いくつかの異常に気づいて職場復帰を謳う人もいますが、こと日本国内においては多勢とは言えません。分散労働環境におけるニューノーマルを期待する自己組織化の議論も国内では聞くことはありません。一方で、人間は上手くやっているかのように取り繕ったり、大きな声で正義を語ったりしてしまうので、これらの問題の核心を見失いがちになります。国内PM3団体が揃って25周年を迎える記念すべきときに全くもって似つかわしくない、何と暗い話なのか。しかし、このような振り返りこそが、私たちPM人に求められている教訓の獲得なのではないでしょうか。

過ぎ去った25年は、我が国におけるモダン・プロジェクトマネジメントの歴史そのものでした。そこにあるめざましい発展、変革に対して、やり残したことが、解決を期待されていることがたくさんありました。ISOの活動は不完全なPPPマネジメントのフレームを提示し、Project Societyなどの論理が支配する世界は、かつての品質管理のような総合的なマネジメントへの昇華を期待しています。来る25年が、PMI日本支部の輝かしい発展と共にありますように。重ねて25周年の節目にお祝いを申し上げます。



一般社団法人
情報サービス産業協会
会長 福永 哲弥

PMI日本支部 創立25周年を祝して

PMI日本支部設立25周年に当たり、心よりお祝いを申し上げます。これまでプロジェクトマネジメントの定着を担ってこられた歴代会長を始め役員各位並びに会員の皆様のご功績、ご貢献に対し深甚の敬意を表する次第です。

さて、社会のデジタル化が急速に進展しています。大規模言語モデル・生成AI・XR技術などのイノベーションやモバイルネットワークの進展、データ利活用の高度化などが、少し前までは思いもよらなかったような変革を社会に引き起こそうとしています。我が国でもこれらの先端的なデジタル技術を最大限に活用して情報システムを抜本的に刷新することにより、そのシステムによって担われている業務そのもの、事業そのもの、ひいては社会の有り様そのものを全く新たな形に創造していくことが求められています。

このように我々が自らの意図に基づいて新しい世界を具現化することは「ものづくり」の根幹をなすものであり、これを支えるプロジェクトマネジメントの社会的重要性はますます高まっています。社会の方向性が社会全体として見通せない「不確実性の時代」においては、試行錯誤を繰り返しながらドラスティックな環境変化に機敏かつ柔軟に対応していくことが必要です。このような状況に対応するために、貴会は「PMBOKガイド第7版」の発行や「PM Award」の実施などさまざまな取組を精力的に進めており、新しい時代のプロジェクトの特性に適合したプロジェクトマネジメントの高度化に多大な貢献されています。

IT・デジタル技術はこれからの全ての産業、ひいては社会全体の基盤であり、社会のデジタル化をあるべき方向に向けて推進していかなければなりません。その担い手として、貴会並びに会員の皆様が今後とも更なる発展を遂げられますよう心よりご祈念申し上げます。

PMI日本支部 創立25周年おめでとうございます!

PMI日本支部 創立25周年にあたり、日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)を代表して、心よりお祝い申し上げます。一言で25年と言っても、20世紀から21世紀へ変遷したこの時期は、困難な状況が重なり、運営の難しい時期であったと思いますが、その中でも大きく組織を成長されたPMI日本支部の皆様の努力には心より敬意を表します。

最近の状況としては、2019年に発生したCOVID-19は、全世界を覆うパンデミックとなり、3年間にわたり世界の経済・社会に非常に大きな影響を及ぼしました。日本においても今年の5月に感染症の認定が5類に変更され、ようやく経済活動も回復してきたように見えます。しかし、「パンデミックはそれまでに起こりつつあった変化を劇的に進める。」という経験則があり、数十年後に振り返ったときに、「2023年がああ激動の始まりだった。」と言われる変曲点となるのかもしれない。

プロジェクトマネジメント(PM)は、どのような状況であっても達成すべき価値を明確にし、確実に実現して行くことを使命としており、劇的に変化する状況の中でも道筋を示し、安定した未来を指向する戦略実現の手段であり、今後ますます大きな役割を担うことが期待されています。四半世紀にわたり、日本におけるPMの普及・発展に貢献されて来たPMI日本支部には、激変が予想されるこれからの四半世紀に向けて、ますます主導的な役割を果たされて行くものと確信いたしております。日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)は、エンジニアリング協会内に設置されたPMBOK®ガイド96年版和訳化特別ワーキンググループのメンバーが中心となり、1998年に発足した日本プロジェクトマネジメントフォーラム(JPMF)が母体となっており、PMI日本支部とは活動してきた期間も、活動の出発点がPMBOK®ガイドであるという原点をも共有する同志であると思っています。これからの激変する社会に道筋を示し、安定した社会を形成するためにも、PMの研究、普及、人材育成など、様々な面で協力して活動して行きたいと思っております。

PMI日本支部が、今後、30周年、40周年に向けて、ますます発展されることを心より祈念して、創立25周年の祝辞とさせていただきます。おめでとうございます。

PMI日本支部 創立25周年を祝して

PMI日本支部が創立25周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。25年の長きにわたり、日本のプロジェクトマネジメント分野において重要な役割を果たしてきただけでなく、皆様の専門知識、経験、情熱によって、日本国内に留まらずグローバルなプロジェクトの成功を支え、組織の成長を促進してきたことに深く敬意を表します。

PMI日本支部が誕生した1998年当時は、数多の大型システム開発プロジェクトが遂行され始めた時期でもありました。会員の皆様に対して、PMBOK®の普及、高品質な教育プログラム、研修などの機会を提供し続けることによりプロジェクトマネジャーの育成に努めてこれ、多くの方々プロジェクトのリーダーシップや成功のための戦略を習得したことが、日本におけるプロジェクト全体の水準を高めたことに加え、ITの高度活用の礎になったと確信しております。

加えて、国際的な視点を持ち、グローバルなプロジェクトマネジメントコミュニティとの連携を重視されてきました。この連携により、日本のプロジェクトマネジメント業界は国際的な交流を通じてさらに発展し、成長し続けることを証明してきたのではないかと思います。

昨今、デジタルトランスフォーメーション(DX)の進展を推進し、さらに、生成AIに代表される革命的な新技術の出現により、世界中でその活用の規制やルール化が始まっています。この新技術によって私たちの生活様式や労働環境そのものが大変革を起こす可能性を秘めています。

今後私たちは、未来に向けてのビジョンを共有することが重要と思っております。テクノロジーの進歩、組織の変革、グローバルな競争環境の変化など、プロジェクトマネジメントには新たな課題も待ち受けていますが、今後益々PMI日本支部が重要かつ大きな役割を担っていくことと存じます。

弊協会としましても、PMI日本支部と連携を深め、プロジェクトマネジメントに関するさらなる活動の充実と展開を図り、多くの会員企業のプロジェクト成功に向けて尽力する所存です。

PMI日本支部と支部会員皆様の益々のご発展を祈念申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。



特定非営利活動法人
日本プロジェクトマネジ
メント協会
理事長 加藤 亨



一般社団法人
日本情報システム・
ユーザー協会
会長 大林 剛郎



Christine Yau
President of PMI
Hong Kong Chapter

Celebrating 25 Years of Excellence

On behalf of PMI Hong Kong Chapter, I would like to congratulate PMI Japan Chapter on reaching a very impressive milestone of 25 years. This is a momentous occasion for your board members, volunteers, chapter members and corporate members, as well as staff and all project management professionals, that deserve a celebration of 25th anniversary with great pride and joy.

Over the past 25 years, Japan Chapter has made a significant impact to the project management community in Japan. You have demonstrated a commitment in promoting project management among professionals across various industries, as well as fostering a community of skilled project managers. Apart from your own chapter, PMI Japan Chapter has also shared a lot of your experience, in particular, the success in engaging corporations in project management activities and creating learning opportunities for your members beyond the Japan Chapter.

PMI HK chapter has just celebrated our 25th anniversary in 2022 and I am very glad that Japan Chapter is celebrating your 25th anniversary in 2023. PMI Hong Kong Chapter and PMI Japan Chapter have been working very closely for the past years, including supporting each other in different events, and also sharing experiences on different matters, such as preparation work for 20th and 25th anniversaries. We look forward to many more years of continuing collaborations and innovations with your chapter.

Once again, congratulations to PMI Japan Chapter on your 25th anniversary, and all the best for continued success in the years ahead.

Best Regards



Erik Kao
President,
PMI Taipei,
Taiwan Chapter

Congratulations on the 25th-anniversary celebration!

On behalf of the PMI Taipei, Taiwan Chapter, I would like to extend my heartfelt congratulations to PMI Japan Chapter on the occasion of its 25th-anniversary celebration. This significant milestone is a testament to the remarkable dedication and achievements of the Japan chapter in advancing the field of project management.

Over the past 25 years, PMI Japan Chapter has consistently demonstrated its commitment to promoting excellence in project management practices, fostering professional growth, and building a strong community of project management practitioners. The Japan chapter has undoubtedly played a crucial role in elevating the standards of project management across various industries in Japan.

PMI Japan Chapter's vision, passion, and unwavering dedication have inspired countless individuals to pursue excellence in project management and have empowered professionals to face the VUCA era with agility, confidence, and efficiency to make sustainability.

As fellow members of the global project management community, we recognize and appreciate the significant impact the PMI Japan Chapter has had in promoting the project management profession and fostering a culture of excellence in Japan (especially after the interaction in April 2023's Region 9 meeting in Taiwan!) The achievements serve as an inspiration to our chapter and project management professionals in Taipei, Taiwan, and beyond.

On this momentous timing, we extend our warmest congratulations and best wishes to PMI Japan Chapter, its board members, volunteers, and all the dedicated professionals who have contributed to its success. May the Japan chapter continue to thrive and bring forth innovation, collaboration, and excellence in project management for many years to come.

Once again, congratulations on the 25th-anniversary celebration!

Warm regards,

PMI Japan Chapter: 25 Years of Excellence and Innovation in Project Management

Greetings to all PMI Japan Chapter members!

This year marks the 25th anniversary of the establishment of the PMI Japan Chapter. The PMI Japan Chapter has been working diligently for 25 years to disseminate and elevate the professionalism and value of project management both in Japan and abroad.

Numerous volunteers who participate in about 40 subcommittees have successfully conducted various events and shared project-related knowledge and experience, becoming the core assets of the PMI Japan Chapter. Thanks to them, the PMI Japan Chapter has become the second largest and most influential chapter in the world this year. I think this is the result of collaboration and effort among the board members, volunteers, and many stakeholders of the PMI Japan Chapter.

In addition, the PMI Japan Chapter has expanded its scope of activities through active exchanges with other chapters and has cooperated with PMI members in other regions to make a significant impact on advancing project management globally. I appreciate the activities of the PMI Chapter with a sense of responsibility and mission, and hope that you will continue to enhance and broaden the activities of the PMI Japan Chapter for a future of growth with all members of society as well as PMI members, and look forward to your contribution to achieving social, organizational, and personal values.

I sincerely congratulate all those related to the PMI Japan Chapter on the 25th anniversary of the PMI Japan Chapter.

Congratulations on the 25th-anniversary celebration!

Dear Mr. Takeshi Hayama, President of PMI Japan Chapter,

It's my honor to extend congratulations to PMI Japan Chapter on its 25th Anniversary on behalf of the PMI Mongolia Chapter and project management community in Mongolia!

We admire and proud of PMI Japan Chapter's management commitment and dedication for 25 years and becoming the second largest chapter in the world with more than 43,000 PMPs and 5,800 members.

PMI Japan 25th Anniversary features Japan Chapter's professionalism and sustainable growth in project management. We believe the PMI Japan Chapter's contributions to cope with the global challenges, such as digital transformation, climate change and geopolitical security, and serving its members and communities has been valuable and indispensable.

We believe that your Chapter's outstanding results in advancing project management and increasing its value inspire and serve as a role model for young chapters, such as Mongolia Chapter. Japan Chapter's management approach for reaching out its members, focusing on interests and social needs of members to serve their communities through various engagements are simply exemplary for all chapters.

Our Warm Congratulations to PMI Japan Chapter's President, community, members, and project management professionals in occasion of 25th Anniversary and wish you success in your future endeavors!

Let's turn ideas into reality!



Jung-Soo Kim
President,
PMI South Korea
Chapter



Tumentsogt (Tumen) Tsevegmid
President
PMI Mongolia Chapter



AMERICO PINTO
Founder and Chair,
PMO Global Alliance

Dear Colleagues of the PMI Japan Chapter,

As the Founder and Chairman of PMO Global Alliance (PMOGA), I am thrilled to recognize and celebrate the PMI Japan Chapter's 25th anniversary.

Your unwavering commitment and remarkable contributions to project management over the past two decades have resonated globally, inspiring established and emerging PMI chapters.

PMI Japan Chapter's journey is a shining testament to the power of dedication, innovation, and change. You have consistently set standards of excellence, providing a roadmap for success within Japan and across the global project management community.

The bond between PMOGA and PMI is one we deeply value. We hope that our shared vision and collaborative spirit may result in a partnership that significantly contributes to the advancement of Project Management Offices in your country.

As we look to the future, I am excited at the prospect of further strengthening our relationship. I am confident that by working closely together, we can continue to develop and enhance PMO practices in Japan, nurturing a conducive environment for project management professionals to thrive.

On behalf of the PMO Global Alliance, please accept our heartfelt congratulations on this milestone.

We look forward to many more years of fruitful collaboration, growth, and shared success.

Best regards,



特定非営利活動法人
itSMF Japan
理事長 西野 弘

敬愛するPMI日本支部の皆様へ

PMI日本支部の創立25周年を迎えられることを、心からお祝い申し上げます。長い年月を経て、組織の成長と発展を重ねてこられたことに、感動を覚えます。

25年という節目の年は、多くの努力、情熱、そしてリーダーシップの結晶です。プロジェPMI日本支部は、日本のプロジェクトマネジメント業界において、革新的で高度な知識と専門性を提供し続けてきました。その成果は顕著であり、業界の発展に大きな影響を与えてきました。

この節目の年を迎えるにあたり、支部の皆様へ感謝の意を述べさせていただきます。ご尽力いただいた全ての方々に、敬意と感謝の念を捧げます。支部の目標を追求し続ける皆様の熱意と情熱は、組織の成功に欠かせないものです。

私が25年前に支部創立に奔走した当時は、中々皆様の賛同を受けられず悔しい思いをした思い出が懐かしく思い出されます。正に産みの苦しみでありました。

その3年後より多くの方々にPMBOK®の重要性の認識が高まり、多くの参加者が現れました。

その後、PMI日本支部は、プロジェクトマネジメントの推進、最新の手法やベストプラクティスの普及において、確固たるリーダーシップを発揮してきました。これまでの25年間で培われた知識と経験は、日本のビジネス界において大きな価値を持っています。

これからも変化の激しいビジネス環境において、PMI日本支部は重要な役割を果たし続けることでしょう。技術の進歩や新たな課題に対応しながら、組織の目標を達成するためのリーダーシップと知識を提供し続けてください。

25周年という節目の年は、これまでの功績を称えるだけでなく、新たな挑戦に向けてのスタートでもあります。社会に価値のある活動のさらなる飛躍と繁栄を祈念し、心からお祝い申し上げます。

PMI Japan – The Chapter that Makes a Difference!

Congratulations to the PMI Japan chapter for the excellence and quality in providing project management best practices to the community and society in general. His work has had a very positive impact on associates and business partners, discussing the new role of the project manager in an organizational context of major changes that has caused organizations to rethink their business models, their way of working and the new profile of the project professional.

The PMI Japan Chapter had a very relevant relationship with the São Paulo Chapter, sharing ideas, lessons learned and reinforcing a friendship that goes beyond borders, making us the “PMI family”.

Congratulations on the 25th anniversary of the PMI Japan Chapter and may you continue to increasingly impact society through projects.



Mônica Mancini
President of PMI
São Paulo / Brazil

Congratulations to 25th Anniversary

Congratulations to 25th Anniversary

Aloha PMI Japan Chapter

On behalf of the PMI Hawaii Board and our dedicated members we bestow our greatest praise, respect, and congratulations on your 25th Anniversary celebration. We share a deep friendship and fond connection to Japan.

Japan has truly influenced the world with business, innovation, manufacturing, art, and rich culture. Your endeavors to build and sustain a strong project management community sets an excellent example for us all.

Best wishes for the future!



Yovo Stefanov
PMI Hawaii Chapter





鍾一鳴
Danny Chung
 Region Mentor (R9)
 Project Management
 Institute
 +852 9646-9020
 danny.chung@mentor.
 pmi.org



Congratulations to your 25th anniversary!

Dear Hayama-san and friends from PMI Japan Chapter,
 こんにちは

Congratulations to your 25th anniversary!

It is my honor to share some special memories and achievements with PMI Japan Chapter in this major milestone.

I relocated to Asia in 2004 and have the privilege of working with PMI Japan Chapter and their leadership team since then. I am impressed with their service to local community – from balanced internal chapter organizational structure which induced diverse volunteer opportunities, to close engagement with chapter members, from study group to social responsibility activities.

PMI Japan Chapter has successfully shared many unique project management experiences in PMI global community, e.g. disaster recovery, international sports event, academic research, etc. This uniqueness and activeness have won the recognition from members and local communities. PMI Japan Chapter is now the 2nd largest chapter in the world and also largest in Asia!

Through the excellent leadership from the chapter board, PMI Japan Chapter has won the PMI global award of Chapter of the Year 2020 (Cat.3). I still remember sharing the joyful moment with chapter president when it was announced.

PMI Japan Chapter is also an active member in PMI Region 9 (Northeast Asia – consist of chapters from Japan, Hong Kong, Taiwan, South Korea, Mongolia). Speeches from PMI Japan chapter on local project have been successfully delivered in the annual conferences of Hong Kong, Taiwan, Mongolia Chapter.

In 2023/4, PMI Japan Chapter will lead a Region 9 regional initiative in Sustainable Development Goals (SGD). Five chapters from Region 9 will work together in cultivating a bigger, stronger PMI global community.

Please join PMI Japan Chapter and I, be the ripple together for more more more of 25 years!

Congratulations again!!

With warmest regards,



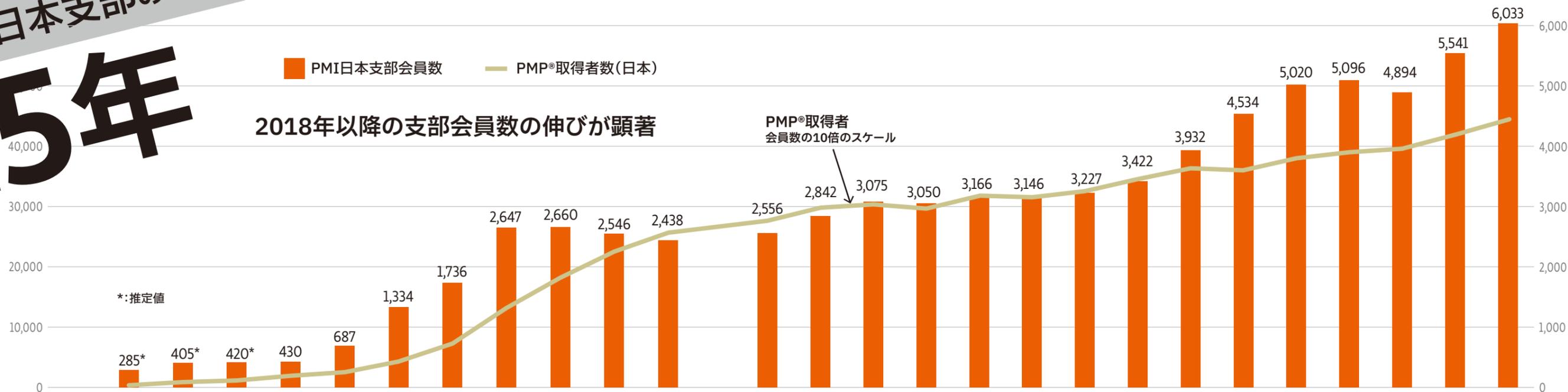
第1章

25年の振り返り

25年

PMI日本支部会員数 PMP®取得者数(日本)

2018年以降の支部会員数の伸びが顕著



	1969	...	97	98	99	2000	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
PMI日本支部				先端建設技術センター (ACTEC) に運営移管 PMI 東京支部設立	建設省からの支援が決定	PMI IT の存在意義をかけた PMI 本部と交渉	ミッション委員会立上げ 経営理念を設定	PMI 東京フォーラム開催 法人プログラム開始	PMBOK®ガイド2000出版	PMI 功労賞を受賞	中間法人 PMI 東京支部発足 ACTEC から独立	地域活動の展開を開始	中期計画の策定	サマーフェスタ開催	一般社団法人 PMI 日本支部発足 関西地区(後にブランチ)設立	センタービル3階へオフィスを 移転	アカデミック・スポンサー制度を 開始	グローバルリーダー育成コース 開始	PMBOK®ガイド第5版 日本語版の翻訳・監訳活動	リージョン9各国との連携強化に 向けR9ミーティング開催	中部ブランチ発足 リーダーミーティング開催	新入会オリエンテーション開始 機構改革ガバナンス強化	PMBOK®ガイド第6版 日本語版の翻訳・監訳活動	海外動向調査 創設20周年プログラム 部会アクティブメンバーによる	非支部会員向けオリエンテーション 開始	関西ブランチ10周年 Chapter of the Year Award 2020受賞 AI@Workプロジェクト始動	PMBOK® 7th 日本語版発刊 会員サービス委員会新設	ホームページ刷新 コミュニケーション制度新設	創立25周年プログラム 国立国会図書館に支部オンライン 資料納入を開始
プロジェクトマネジメント関係	PMI 本部創立		PMI 本部創立 日本版刊行	日本プロジェクトマネジメント・ フォーラム(JPMF)設立	プロジェクトマネジメント学会 設立	PMBOK® Guide 2000 発行		プロジェクトマネジメント資格 認定センター(PMCC)設立		PMBOK® Guide 3rd Edition 発行	日本プロジェクトマネジメント 協会(PMAJ)が発足			PMBOK® Guide 4th Edition 発行				PMBOK® Guide 5th Edition 発行		PfMP/PMI-PBA 資格 開始	Business Analysis を基本標準に格上げ	PMI Talent Trianglet® 制度開始	PMBOK® Guide 6th Edition 発行	The Standard for Organizational Project Management (OPM) 発刊	新たな Agile 認定制度発表 Virtual Experience Series (VES) 開催	PMI 本部創立50周年 新たなブランド・ロゴ発表	PMI 4.0 本格始動 新PMP® 試験実施	大規模イベントの対面形式開催 (Global Summit, LIM Asia Pacific)	PMI とオラクル、建設業におけ るデジタル・プロジェクトの効率化 に向けて協業を発表
世の中の動き			消費税が5%へ	建設省がプロジェクト マネジメント導入を発表		NHK「プロジェクトX」放映開始	ITバブル崩壊			ライブドア旋風		世界同時株安		リーマンショック発生	東日本大震災				アベノミクス効果で デフレ転換傾向へ	消費税が8%に			働き方改革 PMPが昇進・転職に役立つIT 資格の第1位に(白経ITPro調査 優勝)	「働き方改革関連法成立 テニソ・大坂なおみが全米オープン 優勝	令和天皇が即位 消費税率が10%に	安倍首相 辞任、菅首相誕生	岸田首相誕生 東京オリンピック、パラリンピック 開催	ロシア軍がウクライナに侵攻 安倍晋三元首相銃撃	新型コロナウイルス類「へ引き下げ 生成AIの活用ビジネスや教育 などに拡大

2018

- 創立20周年記念関連プログラムの実施
- 『タレント・トライアングル』を発売し、これからのPM人材像を提唱

創立20周年、目標会員数4,000人の大台を大きく突破

主要活動		PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	創立20周年記念関連プログラム 部会アクティブメンバーによる海外動向調査	<ul style="list-style-type: none"> 「The Standard for Organizational Project Management (OPM)」発刊 PMP®試験内容改訂。人、プロセス、ビジネス環境の3つのドメインに焦点。 	<ul style="list-style-type: none"> 平昌五輪で羽生結弦が連覇 「働き方改革」関連法成立 「高度プロフェッショナル制度」創設 大阪府北部地震(最大震度6弱) 西日本豪雨 テニス・大坂なおみが全米オープン優勝 	<ul style="list-style-type: none"> 史上初の米朝首脳会談 英ヘンリー王子、米女優メーガン・マルクルさんと挙式 EU、英離脱協定を正式決定 平昌五輪で韓国と北朝鮮が史上初の合同チーム結成
標準・出版	The Standard for Organizational Project Management Benefits Realization Management: A Practice Guide			
セミナー	PMI日本フォーラム2018 (新しい潮流へのチャレンジー境界を越えてー) 7/14-15 PMI Japan Festa 2018 (新しい潮流へのチャレンジー激動する時代にプロジェクト・マネジャーに求められる変化とは?ー) 10/13-14			
イベント	リーダーシップミーティングLM2018 9/7-8			

創立20周年記念事業

日本支部が2018年1月に創立20周年を迎えるにあたり、「創立20周年記念プログラム」を企画・検討するワーキンググループが2017年4月に発足。過去20年の日本支部の歩みを盛り込むとともに、今後10年間の日本支部の進む道にひとつの布石となればという思いから、チャレンジングな施策が多く企画されました。

【20周年記念誌】

創立20周年を記念して、支部の歴史を編年体でまとめることを目的に「創立20周年記念誌編纂プロジェクト」を2017年12月に開始。見開き2頁で歴史的事実と関係者のコラムでまとめる基本レイアウトを決定し、どのような事実を掲載するか、まずは資料の調査から始めました。基礎となったのは理事会議事録やニュースレターでした。特に資料が散逸している創設期については、初代事務局長清水計雄氏に当時の資料を提供いただき、関係者への取材で何とかまとめることができました。



【記念イベント】

- (1) 記念セミナー
(2018年5月20日(日) 学術総合センターー橋講堂)
- (2) 記念ゴルフコンペ
(2018年9月22日(土) 小見川東急ゴルフクラブ)
- (3) パーベキュー大会
(2018年11月10日(土) 江東区立若洲公園)
- (4) アクティブ・メンバー・パーティー
(2018年12月1日(土) 東京)

【記念出版「タレント・トライアングル」】

「タレント・トライアングル」の編纂は日本支部創立20周年事業のひとつとして「“PMのこれから”に関する情報を発信・提言していこう」という思いから始めました。本書では、PMI本部の「THE PMI TALENT TRIANGLE™ — Your Angle on Success」に例示された3領域のキーワードを基に、「Disruptive Innovation」時代のPMに求められるスキルセットについて、PM実践者である約30名の日本支部会員の専門領域における知見をベースに、PMI発行の標準や調査レポートなどの関連資料を参考にしつつ、これからのPMに関する「実践のヒント」が詰め込まれました。



主要活動

部会リーダー交流会

日本支部には、会員ボランティア主導の「部会活動」があります。2018年には、首都圏に17、関西プランチ内に5つ、さらに中部プランチ内に2つ。また、プログラムと称する活動も2つあります。これらはPM同士の交流、研鑽、情報交換の場であり、日頃の疑問の解消や研究成果の発表のため、多くの会員の皆さまによって積極的に取り組まれています。

これを受けて、日本支部では、部会間のコミュニケーション

を促進する場として「部会リーダー交流会」を定期開催しています。2018年度は4回(3月、6月、10月、12月)開催され、各部会活動状況の紹介や、日本支部からの最新情報の共有および部会リーダー同士のネットワーキングが行われました。特に2018年は、日本支部創立20周年を記念した多くの企画・イベントの最新情報を各部会とタイムリーに共有する場としても活用されました。部会間のコラボレーションのきっかけ作りや各部会のアクティブメンバー増加をはかることなど、部会活動の活性化を支援する活動として継続されています。



創立20周年記念プログラムを振り返って

今から5年前の2018年、PMI日本支部は創立20周年を迎えました。私は20周年記念事業のプログラム・マネジャーとして2017年から20周年記念プログラムの企画活動を開始しました。理事になり1期目に大きな役割を担うことになりました。

20周年プログラムの目的は「プロジェクトマネジメントに関して20周年の機会を広く活用して加速化する」でした。この機会に多くの方々にプロジェクトマネジメントの良さを知っていただく、支部創立20周年を迎え、さらなる飛躍を推進しようという契機にしたいと考えました。理事の方々には各事業のリーダーを担っていただき、事務局や募集したボランティアの方々と共に大変な苦勞をしながらも、一丸となって各事業を成功裏に導いてくださいました。

20周年記念事業には、記念誌やイベント、書籍の執筆など社会に広く知っていただく機会や、アクティブメンバー海外派遣など会員へのサービス向上なども含め進めていきました。多くの方々が事業に情熱を注いでくださり、真剣勝負の活動でした。私がブルガリアにバラ摘みのポラ

PMI日本支部 理事
副会長
浦田 有佳里



ンティアに行っている最中も「今日、打ち合わせをしたい!」という呼びかけにブルガリアの美味しそうなランチを横目にオンライン会議をしていました。そんな多くの方々の活動のおかげで、無事、20周年記念事業を完了することができ、関係してくださった皆様に本当に感謝しております。また、充実した1年を過ごすことができ、理事として良い経験になりました。大変ありがたく思っています。

今年はPMI日本支部創立25周年、今回も25周年記念プログラム・マネジャーを担います。是非ワクワクした1年にしたいと思います!

※20周年事業
記念誌・記念イベント・記念出版(タレントトライアングル)・アクティブメンバー海外動向調査・フォーラム&フェスタ統一テーマ・記念ロゴ&記念グッズ

2019

- 関西支部創立10周年記念セミナーを実施
- 非支部会員向けオリエンテーションを開催し日本支部活動を紹介
- 2020-2022 中期計画策定

関西支部創立10周年

	主要活動	PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	関西支部創立10周年 非支部会員向けオリエンテーション	・ PMI本部創立50周年	・ 令和天皇が即位	・ 香港で学生らが大規模デモ
新設・廃止 部会	PMコミュニティスタディ・グループ(解消)	・ TEDとパートナーシップ締結	・ 消費税率が10%に	・ パリ ノートルダム大聖堂で大火災
標準・ 出版	The Standard for Risk Management in Portfolios, Programs, and Projects Practice Standard for Scheduling – Third Edition Practice Standard for Work Breakdown Structures – Third Edition	・ 新たなブランド・ロゴ発表 ・ 3月、Sunil Prashara氏がPMI President and CEOに着任 ・ Disciplined Agileを買収	・ ラグビーW杯日本大会で日本8強 ・ 京都アニメーション放火、36人死亡 ・ 沖縄 首里城が焼失 ・ マリナーズのイチローが引退表明	・ 北朝鮮、新型SLBM発射 ・ 英首相にジョンソン氏就任
セミナー	PMI日本フォーラム2019(「新しい潮流へのチャレンジ – 変革をリードする –」 7/20-21 PMI Japan Festa 2019(新時代に挑む ~10人のトップランナーに聞く~) 11/23-24 全国9都市開催 地域セミナー テーマ:PM実践ワークショップ 各種の「デザイン思考」ワークショップ	・ PMI 2.0 トランスフォーメーション・プログラム		
イベント	リーダーシップミーティングLM2019 9/7-8			

非支部会員向けオリエンテーション

支部会員とはなっていないもののPMP®等のPMI資格を保有している方々を対象とした「非支部会員向けオリエンテーション」を2019年12月7日に開催しました。

本オリエンテーションはPMI本部および日本支部が提供するプロジェクトマネジメントに関する知識体系、最新動向、教育コンテンツ、部会・研究会活動等の紹介を通して、その有用性を理解いただくことを目的としたものです。当日は60名以上の方々にご参加いただき、20名の方がその場で入会の意思を示してくださいました。

第一部：講演

- (1) 特別講演『DX時代に求められるPMスキル』
元日本支部会長 神庭 弘年 氏

- (2) 『PMI日本支部のご紹介/PMPの有効活用/PDU取得』
組織拡大委員会
委員長 齊藤 学
- 第二部：立食による
交流会



海外動向フィードバックセミナー

プロジェクトマネジメントに関する海外最新動向を把握し、フィードバックを通じて現場実践者へ知見の共有を行うことを目的に、2018年に引き続き2019年も支部部会のアクティブメンバー3名の方々に、PMIの二大イベントである「Global Conference North America」と「PMO Symposium®」に参加いただきました。

2019年はPMI本部創立50周年ということもあったため、例年にも増して盛大に開催されたこの二大イベントについて、その報告会を2019年12月6日(金)に東京神田で行いました。定員は100名でしたが超満員での開催となり、満足度も高かったため、2020年2月にアンコールセッションも開催しました。



主要活動

日本フォーラム2019

PMI創立50周年にあたる2019年は、「新しい潮流へのチャレンジ – 境界を越えて –」をテーマに、7月20日(土)、21日(日)の両日、東京都千代田区の学術総合センターにおいて開催しました。会場、同時中継をあわせて延べ1,600名を超える方々に参加いただき盛況裡に閉幕しました。

2019年はPMIプレジデント兼CEO Sunil Prashara、PMI



大会場風景

理事 Tejas Surの両氏からの「プロジェクトマネジメントの価値」と題した基調講演を皮切りに、2日間で12講演がありました。

PMI本部創立50周年を記念して、特製Tシャツ、トートバックを会場参加者全員にお配りしたほか、交流会では、ボランティアの一員である豊田光海氏など草月流の師範による豪華な生け花が会を大いに盛り上げてくれました。



交流会

関西支部10周年記念セミナーについて

2019年9月21日(土) 大阪駅前ブリーゼプラザにて関西支部の創立10周年記念セミナーを開催し、総勢158名の方にお越しいただき、盛大に執り行いました。PMI日本支部関西支部は、2009年12月に国内初の支部組織として関西に発足し、10年の間に関西支部全体の計画策定やイベントの企画・実施を担う運営委員会と5つの研究会を抱える、80名規模の大きな組織へ成長しています。本記念セミナーはPMI日本支部会員だけでなく、一般の方にも広く関西支部の活動を知っていただき、関西支部の今後の発展に資するイベントになりました。

基調講演①は、ニッセイ情報テクノロジー社長(現会長) 矢部剛様より、日本生命保険相互会社の情報システム部門責任者として長年多くの大規模IT開発プロジェクトに従事されたご経験を踏まえ、プロジェクトを成功に導くためにリーダーとして心掛けてこられたこと等をお話いただきました。

研究会代表講演①は、医療PM研究会代表宮原勅治様から「関西支部が生まれた頃のプロジェクトマネジメントと、これからの期待すること」と題して医療プロジェクトにおけるマネジメント動向をご講演いただきました。

研究会代表講演②は、IT上流研究会の戴春莉様より、京都の伝統産業界で外国人情報システム事業部責任者として従事された経験を踏まえ、経営者目線+利用者目線+技術者目線でPM実践事例をご講演いただきました。

PMI日本支部 理事
杉原 秀保



最後は、元 京都市副市長でレジリエント・シティ京都市統括監の藤田裕之様より、人口減少時代に持続可能な社会の実現を目指した京都市のまちづくり事例についてSDGsを踏まえてご紹介いただきました。

本記念セミナーでは産官学のリーダーに登壇いただき、講演後の名刺交換やセミナー終了後の交流会も盛り上がり、業種の垣根を超えて皆さまが互いに学び合う姿勢が印象的でした。関西支部を支えていただいた皆さまのお陰で10周年記念イベントが開催できたことを、心よりお礼申し上げます。



10周年記念セミナー会場の様子

2020

- 新型コロナ・パンデミックに即応し新活動体制を構築
- 東南アジア地域の支部初の『PMI Chapter of the Year Award』を受賞

新体制下、コロナ禍によるイベント・セミナーの全面リモート化

	主要活動	PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	Chapter of the Year Award 2020受賞	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなAgile認定制度発表 ・Virtual Experience Series (VES)開催 ・Future 50創設 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ 緊急事態宣言 ・九州豪雨で死者77人 ・安倍首相 辞任、菅首相 誕生 ・志村けんさん、岡江久美子さん コロナ感染で死去 ・アニメ映画『鬼滅の刃』無限列車編 大ヒット ・藤井聡太七段 最年少タイトル 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ パンデミック宣言 ・英国がEU離脱 ・香港で「国家安全維持法」施行 ・ヘンリー英王子 公務引退
	SDGs スタートアップ研究会始動			
	中部ランチ 創立5周年			
	AI@Work プロジェクト 始動			
	中期3か年計画			
新設・廃止 部会	部会紹介セミナー 開始			
	AI@Work プロジェクト			
標準・出版	Practice Standard for Project Estimating - Second Edition			
	The Standard for Earned Value Management			
セミナー	【全てオンライン化】			
	PMI日本フォーラム2020 (「デジタルイノベーションに挑む」— プロジェクトマネジメントが変える社会と組織 —) 7/4-5			
	PMI Japan Festa 2019 (予期せぬ危機に決断せよ! ~ 危機を乗り越える新しい時代のプロジェクトマネジメント ~) 11/7-8			
	中部ランチ主催 創立5周年特別セミナー 9/26			
イベント	【全てオンライン化】			
	リーダーシップミーティングLM2020 9/12			

PMI Chapter of the Year Award 2020 受賞

PMI日本支部は、2019年の活動が評価され、PMIが選ぶ最も優秀な支部として「Chapter of the Year Award 2020」(以下、Chapter Award)を受賞しました。東アジアおよび東南アジア地域の支部として初の受賞でした。

審査観点は、会員に提供した価値、PMI標準類を活用したプロジェクトマネジメント発展への貢献、会員増及び会員継続率向上の取り組み、ボランティア活動の活性化、2019年における顕著な活動成果の5つです。

本賞の受賞は、世界300支部の中でも先導的な支部として日本支部が運営ノウハウを他支部に展開することが期待される存在になったことを意味します。本賞は会員数によって、

25～300人、301～1500人、1501人以上の3部門がありますが、日本支部は1501人以上の部で中央イタリア支部と共に受賞に至りました。



受賞後、11月5日付けで日経 x TECHに「英語で発信すれば、日本のプロマネ活動は全世界から評価される」が掲載され、日本支部のPMI Chapter Award受賞が紹介されました。日本支部のミッションに則り取り組んだ実績を世界が受け取れる論理展開で、英語で臆せず主張することが、我々自身の成長と世界への貢献につながることを確信した嬉しい出来事でした。

2020年 SDGs スタートアップ研究分科会の始動について

■プロジェクトマネジメントの力で日本のSDGs事業の立ち上げ・推進に貢献する!
PMI日本支部は、2019年に内閣府が設立した「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」内に『SDGsスタートアップ研究分科会』を設けています。

「SDGs」という言葉の認知度は増えていますが、大事なのはSDGsを絵に描いた餅にしないためには実際にSDGsを事業として推進することが大切です。

しかし、多くの団体がSDGs事業の取り組みを始めようとしても、立ち上げ推進がなかなか効果的にできていないという課題認識を私達は持っています。その課題を解決するために、SDGs事業に即したプロジェクトマネジメント手法の開発と普及・促進を目的として分科会を設立しました。

■2020年本格的に活動拡大

2020年からPMI日本支部内でメンバーの公募を開始し、本格的に活動を拡大しました。2020年は新型コロナ禍拡大の時期でもあり、まだ世の中的にもオンラインのコミュニケーションやコミュニティ運営、イベントやワークショップ開催が試行錯誤の時期でした。

しかし、新型コロナを理由にSDGsの歩みを止めたくはありませんでした。

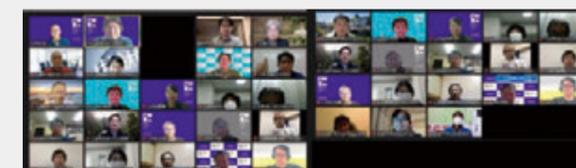
むしろオンラインの時代だからこそ、時間の制約や距離の制約を超え多様なメンバーが集まり、コンテンツも活動も大きく発展したのが2020年でした。

■主な活動内容

私たちはSDGsプロジェクトのマネジメント手法を学ぶ「ベーシックコース」と、実際の法人のSDGsプロジェクトを支援する「アドバンスコース」を実施しています。

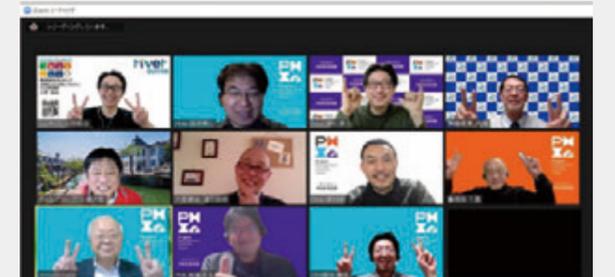
●ベーシックコース

SDGs事業立ち上げ・推進に即したアジャイルアプローチの『SDGsスタートアップ方法論』を研修・ワークショップ形式で体得できるコースを開講し、2019年から2022年までに延べ90近くの法人に研修・ワークショップを提供しています。



●アドバンスコース

ベーシックコースの修了法人を対象に、その法人が実際に実行されているSDGsプロジェクトに担当PMチームをアサインした伴走型のプロジェクトマネジメント支援を、2023年時点で8法人に対して行っています。



PMI日本支部 理事
SDGsスタートアップ研究会 代表
稲葉 涼太

2021

- イベント運営統合型プラットフォーム『eventos』を導入
- PMBOK®ガイド第7版 日本語版発刊と対応セミナー開催

PM Award 創設による国内成功ナレッジの蓄積

	主要活動	PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	eventos、オープンバッジ採用 PMBOK®7 日本語版発刊 プロジェクトマネジメント研究報告 PM Award 創設 未来創造セミナー 開催 会員サービス委員会 新設	・ PMI4.0 本格始動 ・ Mike DePrisco氏が Intelim President and CEO, Chief Operating Officer に就任。 ・ Make Reality パーチャル・ハブを設立。 ・ 新 PMP® 試験実施。	・ 新型コロナウイルス ワクチン接種が2月にスタート ・ 温室ガス46%削減の新目標表明 ・ 東京オリンピック、パラリンピック開催 ・ 眞子さまと小室圭さんが結婚 ・ 熱海で土石流 26人が死亡 ・ 岸田首相 誕生 ・ 原則無観客で東京五輪開催	・ バイデン大統領就任 ・ オミクロン株が急拡大 ・ タリバンがアフガン掌握 ・ トランプ支持者 米議事堂占拠 ・ 二刀流の大谷 メジャー MVP
新設・廃止 部会	会員サービス委員会 SDGs スタートアップ研究分科会プロジェクト			
標準・出版	PMBOK® Guide – Seventh Edition			
セミナー	【全てオンライン化を継続】 PMI 日本フォーラム2020 (デジタル革命に挑む! ~進化するプロジェクトマネジメント~) 7/10-11 31日までオンデマンド配信 PMI Japan Festa 2020 (The future beyond new normal ~ ニューノーマルを超えた未来を考える ~) 11/6-7 30日までオンデマンド配信 未来創造セミナー (夢の力で切り拓く未来 ~教育×SDGsを通じて実現する世界平和~) 10/20			
イベント	【全てオンライン化を継続】 リーダーシップミーティング LM2021 9/12			

PM Award の創設

近年、「プロジェクト」という仕事の進め方が社会全体で注目を集めており、海外ではそれを実践している企業・団体を表彰する制度が多く創設されています。これを踏まえ、未来創造に繋がる日本国内および、日本企業・団体により実施された優れたプロジェクトを表彰する制度として、2021年に PM Award を創設しました。

第1回の2021年は試行錯誤の中での開催でしたが、30件ものプロジェクトエントリーがあり、その中から6件をファイナリストとして選出しました。ファイナリスト紹介オンラインセミナーには1,400名が視聴登録。オンライン投票には約1,000名が参加。11月の授賞セレモニーにも200名以上の方にリ

アルタイム視聴いただきました。

今後も本表彰制度を継続し、PM の社会的認知向上に寄与していきます。



「eventos」と「オープンバッジ」の導入

PMI 日本支部は従来、リアルな会場で全てのイベント、セミナーを開催していましたが、2020年のコロナ禍以降、その様相は一変しました。2020年には試行錯誤の中、Zoomを始めとしたライブ配信やオンデマンド配信ツール、チケット購入サイト等を複数組み合わせ、日本フォーラム、Japan Festa、月例セミナーといった主要なセミナーをオンラインで開催しました。しかし、その環境は参加者にとっても、主催者にとっても、複雑で利便性があまり良いものではありませんでした。

PMI 日本支部では2021年に新しいイベントプラットフォームである『eventos』を導入し、日本フォーラム2021から利用を開始しました。『eventos』は統合型環境となっており、イベント案内、参加申込み管理、ライブおよびオンデマンド配信視聴等を全て同一環境で提供できるため、参加者の利便性向上のみならず、主催者の運営効



PMI 日本支部 事務局長
寺田 尚弘

率化も同時に実現できました。PMI 日本支部は、それ以降の全てのイベント、セミナーを『eventos』で運営・開催しており、参加者の皆さまにも好評をいただいています。

また2021年には「オープンバッジ」を導入し、日本フォーラムの最優秀講演者、優秀講演者、ボランティアメンバーや月例セミナーの皆勤賞の方々等に「オープンバッジ」というデジタルバッジの発行を開始しました。

「オープンバッジ」は国際標準規格に準拠した知識・スキル・経験のデジタル証明となり、大きく注目を集めており、PMI 日本支部でもいち早く導入しました。



PMBOK®ガイド第7版 日本語版発刊の裏側

PMBOK® ガイド第7版日本語版にまつわる話を備忘録的にまとめてみた。

第7版は内容も外観も従来のPMBOK®ガイドとは大きく変わったが、内容はともかく翻訳活動に関する話を語るには、2017年に発刊された第6版まで遡る必要がある。

第6版は、第5版の反省を踏まえ、それまでの翻訳活動とは異なりPMI主導で行われた。10か国語の翻訳メンバーがヨーロッパのホテルで一堂に会し、日本チームは8名の精鋭で参加した。初日に作業スコープの説明があったが、翻訳チームは「本文の翻訳」が担当であり、図版や全体を通しての品質レビューには加わらない、というものである。そこで私を全体レビューに参加させるように提案したのだが、採用されなかった。その結果出版された第6版はさんざんなもので、すぐさまPMI本部にクレームを入れ作り直してもらい第2刷で改善した。そこで第7版での改善をPMIの上層部に直接申し入れた。

また2018年当時PMIの会長だったMark Langley が来日した折に直談判に及んだ。私と中嶋理事とで実情を



PMI 日本支部 アドバイザー
鈴木 安而

説明し理解を得たが、その後Markは退職してしまった。そこで、2019年に会長に就任したSunilの来日時に機会を設け、中嶋理事との二人三脚で、将来の第7版の日本語版に関する日本側の要求を詳細に伝えた。

2020年に第7版の翻訳活動が始まったが、あくまでPMI主導という方針だった。当初は日本、中国、韓国の3チームが一緒になって翻訳を進める計画だったが、コロナ禍に見舞われたので集合できず、日本は独自に活動することになった。結局翻訳のみならず、製作を含めて日本側は独自に活動することになり、4名の精鋭チームと日本支部事務局の積極的な参加を得て、2021年に現在のよう素晴らしいものが出来上がったのである。

多謝

2022

- 法人さま向け 支部紹介セミナー 開始
- 地域セミナーの現地開催復活、アフターコロナの始動
- 2023-2025 中期計画策定

コミュニティ制度新設、会員数は世界第2位に拡大

主要活動		PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	地域セミナー現地開催	・大規模イベントの対面形式開催(Global Summit, LIM Asia Pacific)	・安倍晋三 元首相銃撃	・ロシア軍、ウクライナ侵攻
	コミュニティ制度 新設			
新設・廃止 部会	PMBOK® ガイド 第7版関連セミナー(有料版・無料版)	・9月 Pierre Le Manh 氏が President and CEO に就任。	・知床観光船 沈没事故	・エリザベス女王死去
	女性PMコミュニティ研究会(解消)			
	メンタープログラム(廃止)			
標準・出版	SDGs スタートアップ研究分科会プロジェクト	・ESG リソース・ハブを設置。	・東京ヤクルトスワローズの村上 56本塁打・三冠王	・韓国雑踏事故158人死亡
	「コミュニティ」を新設(女性PMコミュニティ、AI@Work、DA)			
セミナー	Process Groups: A Practice Guide	・日本電気株式会社がPMIと戦略的パートナーシップを締結し、ディシプリン・アジャイルのコンサルティングパートナーに。	・旧統一教会 政治問題化	・世界でコロナが感染6億人
	【オンライン化を継続 一部現地開催復活】			
	PMI日本フォーラム2022(共創社会をリードするプロジェクトマネジメント ~ Make Ideas a Reality ~) 7/9-10 31日までオンデマンド配信			
	PMI Japan Festa 2022(プロジェクトマネジメントの新たなステージへ ~ Another Step with Adaptive Management in the VUCA Era ~) 11/12-13 30日までオンデマンド配信			
イベント	法人さま向け 支部紹介セミナー 開始 1/25	・藤井竜王 最年少五冠	・コロナ感染者が1日10万人	・大リーグ大谷 2桁勝利 2桁本塁打
	オンデマンド: PMBOK® ガイド第7版紹介セミナー 1/28-6/ 末まで			
イベント	関西PM実践研究会発足15周年記念 オンラインワールドカフェ ~オンライン時代の地域コミュニティを考える~ 4/23			・習近平 総書記 異例の3期目政権が発足
				・サッカーW杯日本は過去最高に並ぶ9位

コミュニティ制度の新設

日本支部では、個人会員向けのボランティア活動の場として部会(研究会、委員会、プログラム)という枠組みがありますが、非会員や法人スポンサー企業社員は参加することができない状況でした。そこで、非会員の方々の活動を促すとともに、会員と非会員とのコラボレーションにより幅広い知見を集め、支部活動を通じた会員価値をより一層高めるための新しい枠組みとして、2022年にコミュニティ(Community)制度を新設しました。

2022年は「AI@WORK」、「女性コミュニティ」、「DA(ディシプリン・アジャイル)コミュニティ」の3つが新規に立ち上がり、2023年には「建設コミュニティ」、「未来創造コミュニティ」が加わっています。

以後、会員・非会員の方々が一緒に生き生きと活動できる場を更に拡大していく予定です。

PMBOK® ガイド 第7版関連セミナー

2021年に発行された PMBOK® ガイド第7版。第6版との違いや、第7版を詳しく解説するセミナーを2種類立ち上げました。

【紹介セミナー(無料版)】

「PMBOK® 第7版はなぜこのように変わったのか」、「PMBOK® ガイドをどう読めばいいのか」といった声に応えるべく、本セミナーでは、第7版の監訳リーダーを務められた鈴木安而氏から、PMBOK® の長年の歴史も踏まえて改定の背景や内容を概説いただきました。

【解説セミナー(有料版)】

本セミナーはオンデマンド形式で、チケット購入後1年間は何度でも視聴可能としています。全体編、プロジェクトマネジメント標準編、プロジェクトマネジメント知識体系ガイド編の3部構成で、全部で17講座あり、約8時間のセミナーとなっています。講師は支部の PMBOK® セミナープログラムの方々11人が勤めています。

地域セミナーの会場開催再開!

地域セミナーは地域サービス委員会が10年以上前から毎年主催しているセミナーイベントで、地域会員へのサービス向上、地域でのPM活動の活性化を目的に無料で開催してきました。コロナ禍の2020年、2021年は、各地域在住のアクティブメンバーが地域の特徴を活かしたオンラインセミナーを企画し国内6カ所でも実施しましたが、2022年度は行動制限が緩和されたこともあり、3年振りに会場での開催を企画しました。会場開催は日本支部の中でもコロナ禍後では初めての試みとなりました。

セミナーは2部構成とし、第1部では各地域共通テーマとして「PMBOK® ガイド7の概要」を設定し支部理事による講義を、第2部では下表のように地域独自のテーマを設定し運営しました。

コミュニティ	第二部の内容 (WS: ワークショップ)
北海道コミュニティ	PMBOK® ガイド第7版について グループディスカッション (WS)
東海・富士コミュニティ	PMBOK® ガイド第7版の読み解きと地域の県民性を考慮した活用 (WS)
中部ランチ	地域プロマネ座談会 (WS)
関西ランチ	PM ショートケース (WS)
広島コミュニティ@中国	DX へのチャレンジ ~ひろぎんグループの取組事例から~ (講演)
九州コミュニティ	人とチームが動き始める「ときめき」プロジェクトの極意 (講演 & WS)

新型コロナの感染が収まりきらず状況が刻々と変わり開催が危ぶまれた時期もありましたが、幸いにもいずれの

PMI日本支部 理事
地域サービス委員会担当
千葉 昌幸



地域でも無事開催することができました。受講者の方々にはPMBOK® の内容はもちろん、各地域コミュニティならではの企画を通じ、多くのヒントや新たなアイデアを提供できたものと考えています。

スタッフも受講者の方々と共に親交を深めることができ、対面コミュニケーションの良さを改めて実感できる機会となりました。



2022年 支部webサイトリニューアル

2022年の年明け早々、PMI日本支部 Web サイトのリニューアルプロジェクトが発足しました。会員の皆様にとって利用者視点で活用しやすく、欲しい情報に素早く辿り着くことができる、そして会員の魅力を発信することで新たな会員を増やすことを目指したものです。

コンセプトは、ボランティアの皆様による活発な部会活動という特徴を活かした「顧客体験」。これまで積み上げてきた活動の歴史情報を維持しつつ、会員個人や部会にフォーカスを当てたコンテンツを多数用意し、目先の変わる新鮮な内容にしたい、そう考えました。非会員の方々が新サイトをご覧になった時、発信されるコンテンツを通じて部会活動に興味を持ち会員になり、さらには部会活動への参画につながる。会員の方々が新しい自分を発見し、共に成長していける媒体になること。それがプロジェクトメンバー間の思いでした。

PMI日本支部 理事
webサイトリニューアルプロジェクトリーダー
鬼束 孝則



プロジェクトチームメンバーは、開発ベンダーと共に進捗会議や課題対応を行いつつ、新しいプロセスやルールを反映した運用設計を進め、企画・構想からコンテンツの作成に至るまで約1年をかけ新サイトが完成しました。

サイトのメニューやデザインは、作り手が会員だからこそ欲しかった構成とコンテンツ、そしてそこで得られる価値を十分に体感いただける作りとなっています。新しい自分の発見に新Webサイトをぜひ活用ください。

2023

- ホームページを刷新
- 創立25周年記念関連プログラムの実施

創立25周年 コロナ禍を乗り越え新たなステージへ

	主要活動	PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	刷新版ホームページ稼働開始 創立25周年記念関連プログラム	<ul style="list-style-type: none"> PMIとオラクル、建設業におけるデジタル・プロジェクトの効率化に向けて協業を発表 PMIとGPM(グリーンプロジェクトマネジメント)がプロジェクトマネジメントにおける持続可能性を推進するため、戦略的パートナーシップを締結 新CAPM®試験実施 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ「5類」へ引き下げ 東日本大震災 被害原発処理水 海洋放出開始 ジャニー喜多川氏の性加害問題 表面化 生成AIの活用 ビジネスや教育などに拡大 「ルフィ」広域強盗事件 	<ul style="list-style-type: none"> G7広島サミット チャールズ国王 戴冠式 トルコ・シリア大地震 WBC 侍ジャパンが全勝で優勝
新設・廃止 部会	SDGs スタートアップ研究会(プロジェクトから移行) 建設コミュニティ 未来創造コミュニティ			
標準・出版	Process Groups : A Practice Guide			
セミナー	【オンラインを継続】 PMI日本フォーラム2023 (チェンジリーダーを支えるプロジェクトマネジメント～Project Management expected by Change Leaders～) 7/8-9 8/31日までオンデマンド配信			
	PMI Japan Festa 2023 (チェンジリーダーが期待するプロジェクトマネジメント) 11/11-12 30日までオンデマンド配信			
イベント	【現地開催】 地域セミナー 全国6箇所 9/30-11/25			
	【現地開催】 リーダーシップミーティングLM2023 9/9-10			

PMI日本フォーラム2023

沈静化の兆しが見えてきたとは言えコロナ禍も4年目。大規模自然災害も増え国内外の情勢が混沌とする中、創立25周年記念の2023年もPMI日本フォーラムは4年連続で全65セッションをリモートにて配信しました。

テーマは「チェンジリーダーを支えるプロジェクトマネジメント～Project Management expected by Change Leaders～」。リアルタイムで7月8日(土)、9日(日)に基調・招待講演を、オンデマンドで7月9日(土)～8月31日(木)に基調・招待・研究報告・アカデミック講演を配信しました。

基調・招待講演では、PMI本部の PMI President & CEO である Mr. Pierre Le Manh から「Project Managers: Key Drivers of Digital Transformation」と題し、PMI AP の SoHyun Kang との Q & A セッションを交えた基調講演(ビデオ録画)の後、11人の国内識者から2日間にわたり示唆に富む講演をいただきました。

基調・招待講演以外にオンデマンド配信したのは、アカデミッ

ク8講演、研究報告講演では20の部会・コミュニティから37セッション、3つの法人スポンサー・スタディグループから3セッション、フォーラム・スポンサー4社から5セッション 計53セッションでした。

2021年6月に導入・運用開始したイベント管理プラットフォーム『eventos』は2年を経過。運営会社に対する機能改修要望もいくつか受け入れられ、オンデマンド配信では再生速度や解像度の調整も可能となるなど、少しずつですが使い勝手のよいものに改善されています。

アンケート結果からは、現地開催や交流会などの復活に対する要望も根強く、2024年に向けて魅力的な開催形態の模索を続けています。



日本支部創立25周年記念プロモーション活動

創立25周年プログラムの中で先行して活動開始した全体プロモーションの様子をご紹介します。

活動開始にあたり知恵を結集するにはまずメンバーが必要と、サポートメンバー募集を2023年2月に告知。集まってくださったツワモノ8名のみなさんと、①動画班 ②メルマガ&コンテンツ班の2班体制で活動を開始しました。

創立25周年プロモーション担当理事
永合 由美子



最初の取り組みは、全体活動の起点となる2分間動画の制作でした。海外の他支部の例も参考にしながら、メイン視聴ターゲットをPMI関係者と定め、「過去を振り返るだけでない、次の四半世紀につながる内容」、「海外から見て日本支部を理解いただける動画」を意識しました。また、富士山や桜をモチーフとし、全編に和のテイストが感じられるテンポの良い仕上がりで、記念イベントでも活用いただけることを目指しました。

PMI日本支部の歴史とともに、新たな挑戦であるさまざまなコミュニティ活動や、PM Award、プロジェクトマネジメント研究報告書などを紹介しながら、プロジェクトマネジメントが社会でより広く有効活用されることを期待し、動画は「あなたの日常に新たなアプローチを！」のメッセージで締めくくりました。

(動画はこちらからご覧ください。
<https://www.youtube.com/watch?v=BNTmnQW1uho>)

また、動画だけでなく、PMの魅力発信するコラム原稿を作成し、創立25周年記念WEBページ(<https://www.pmi-japan.org/25th/>)での発信を継続しています。WBCの栗山監督、諸葛亮のプロジェクトマネジメントや、料理やAIを題材とした内容で、プロジェクトマネジメントに馴染みのない方にも興味を持っていただけます。

これから年末にかけて記念イベントも目白押しです。みなさんも、ぜひ自分事として創立25周年に関わり、新たな発見やネットワークを楽しんでください。



コロナ禍の日本支部運営で苦労したこと

私の会長の在任期間は2021年1月～2022年3月までの2年間であり、コロナ禍と軌を一にしています。会長に就任してからの2年、コロナ禍で事務局の在宅勤務、イベント、セミナーの中止やリモート開催、と皆様方にはご不便をおかけしました。改めて皆様に感謝申し上げます。なにしろ一度も会員の皆様にお目にかかって、ご挨拶し、懇談する機会もないまま会長の任期を終えました。(笑)でもこの間に蒔いた種が、今の日本支部の更なる発展に貢献できたのではと自負しています。

苦労の連続ではありましたが、理事増員、副会長の増員による戦略運営委員会の役割強化等体制面での強化が大きかったと思います。

PMI日本支部 監事(前会長)

片江 有利



それに加え、私が招待を受け参加したPMOグローバルアライアンスのコロナ禍対応ハッカソンで世界のPMOが業務の取組み手法の明示や積極的な情報提供に組織を挙げて取り組む姿勢を学びました。

その教訓をPMI日本支部でも実現させるため、危機管理委員会を設置し、「PMI日本支部コロナウィルス対策方針」のもと、理事、事務局、ボランティアの皆様と一体になって運営し、乗り切ってまいりました。

【PMI日本支部コロナウィルス対策方針】

1. PMI日本支部の活動で感染者を出さないようにする。
2. 日本政府、東京都等のコロナウィルス対応方針を遵守して対策を講じる。
3. コロナウィルス収束まで、支部活動における対面活動は極力回避し、Zoom等を用いたリモート対応とする。
4. 事務局については、原則在宅勤務を継続する。会員・法人スポンサーのサービスは最低限維持する必要があり、リモート活動で対応する。
5. 各種セミナーについても上記原則に則って実施する。
6. 会員満足度が低下しないように情報発信等は積極的に行う。
7. リモート対応のための環境整備を継続する。
8. この方針の継続、見直しについて適宜検討し、周知する。

会員は事務局への出入り禁止で対応できますが、事務局員の仕事の進め方にも悩みました。事務局員の罹患を避けるためにはリモート業務への切り替えが必須でした。ところがリモート業務を想定していなかったため、システムの改修、PC等の装備の見直しを行い、基本出社しなくても済む体制を構築しました。正直なところ会員減少の中で、会費収入がどうなるか、いつまでコロナ禍が続くのか等、投資の決断をするに当たり会長として大いに悩みました。しかしそのことが事務局業務の効率化

につながり、「事務局員の働き方改革」を実現し、現在事務局がセミナーの対応等多様な業務をこなせるのに貢献できたと思います。

この間のPMI日本支部の活動を振り返りますと、PMI日本フォーラムとPMI Japan Festaのリモート・オンデマンド開催に加え、PMBOK®7版日本語版の出版、PM Awardの開催、プロジェクトマネジメント研究報告の発刊、各種セミナー、研修などイベントを開催し、多くの参加者

を集め高い評価を得ることができました

一時期は減少した会員数も、2022年初頭には会員数5,000人と世界第3位の規模に成長し、PMP®資格者も40,000人(世界第5位)となって、PMIのグローバルコミュニティの中で存在感と影響力を増しました。

イベントやセミナーはすべてリモート対応となりましたが、事務局やスタッフが、参加しやすく、見やすいプラットフォームeventosを採用する等準備に時間をかけリモート開催の運営の効率化と品質向上を図りました。この時も会員減少する中で、会費収入がどうなるか、オンデマンド視聴のニーズが本当にあるのか等、投資の決断をするに当たり会長として大いに悩みました。結果はオンデマンド視聴が好評で、参加者が増加したことに加え、参加者の地域の広がりも実現でき、初年度トントンその後の継続で収益が出るようになり杞憂に終わりホッとしています。他団体では収支面から導入を見送ったところもあり、よく決断したと思います。

PMI Chapter of the Year Award 2020受賞を契機に海外に対して積極的な情報発信にも努めました。PMIが選ぶフューチャー50、35歳以下のニュージェネレーションリーダに日本支部が推薦した、落合陽一さん、吉富愛望アビガイルさんが選定されました。

国内に対しても2021年は情報発信等を積極的に行おうと、理事が協力して交代で記事を書きニュースとして発信しました。この情報発信の積み重ねが端山会長の2023年Chapter Leadership impact Awardsの受賞につながったと思います。

PM Awardでは、応募プロジェクトからファイナリストを選び、プレゼンテーションを視聴いただき皆様の投票で各賞を選定する、参加型の運営を行いました。

またPMI日本支部には30を超える部会(委員会、研究会)があり、PMIの最新動向の紹介や標準書の翻訳・出版、セミナー開催等会員が研究活動を行い、成果を発表するという世界に例のない活動を行っています。この研究活動の成果をアーカイブとして残したいと以前から考えておりましたが、「プロジェクトマネジメント研究報告」として各研究会からの活動成果をまとめ刊行することができました。皆さんの意欲と挑戦に敬意を表したいと思います。

います。

私事ですが、PMOGAのアワードの審査を務める中で、中近東のUAEドバイの取り組みやサウジアラビアのPMPの増加等世界が大きく変わろうとしていることを実感しました。

PMIのPPPMだけではなく様々なマネジメントフレームを使いガイドラインを設定し、組織を構築し、人材育成、インフラを構築、KPIを設定、他国とのベンチマーキング、コミュニティを運営し、DXに取り組むべくアジャイルの実装、そして理解者を増やすための人材育成と素晴らしい成果を挙げています。しかも様々なアワードに応募し客観的な評価を活かして改善を進め、極めて短期間(5年～8年)で実現させています。

中近東やアフリカの台頭等プロジェクトマネジメントの世界は大きな転換点を迎えています。PMIはデジタル社会への移行の流れを踏まえ、新しい戦略PMI4.0を提唱しています。プロジェクト・エコノミー、すべての仕事プロジェクト・ベースになり、機能や属性によって仕事を定義するのではなく、何をなし遂げるかで仕事を定義する時代の到来を表した概念のもと、プロジェクトマネジメントの専門家だけではなく、様々な分野でプロジェクトマネジメントを理解した、「Changemakers—変化を起こす人」が推進するということで様々な改革を提唱しています。そのためアジャイルマネジメント等プロジェクトマネジメントの方法論の変更が不可欠となり、PMBOK®第7版の出版やPMP試験内容変更もこの流れを汲むものです。

このような変化を踏まえ、PMI日本支部はPMI本部の打ち出すさまざまな施策について、タイムリーな翻訳、出版、WEBへの掲載、セミナーの開催を通じ最先端の知見の共有に努めています。今後も常設の事務局と事務所を有し、多数の会員ボランティアに支えられながら、法人スポンサーなど独自の仕組みで産業界、学界、行政機関、地域コミュニティ、他団体との連携も深めて、世界でも稀有な支部としてプロジェクトマネジメントの発展に貢献することでしょう。

私も引き続き微力ながら支援を継続してまいります。



第2章

未来に向けて

2018年、PMI日本支部20周年記念の節目に日頃活発に部会活動されている方々による座談会を開催し、その様子を記念誌でご紹介しました。その時のテーマは、「10年後のプロジェクトマネジャー、プロジェクトマネジメントはどうなっているか?」あれから5年が経過した今、当時の参加メンバー数名に再びお話を伺いました。

座談会振り返り

座談会では、プロジェクトマネジャー(PM)としての姿勢を、PMの未来を予想して話しました。しかし、その予想は大きく外れたと思っています。

当時私は、プロジェクトはチャータによってビジネスゴールを設定され、それをPMが実現するというモデルを持っていました。アジャイルとなっても、図1の「従来の体制」に示したような体制で進めるものと予想していました。つまり、プロジェクトのゴールがビジネス価値の実現となることで、難易度は高くなるが、ステークホルダーとPMは直接話しスコープを合意し、自らチームを率いて、リスクをマネジメントするというPMのロールは変わらないと思っていました。

ところが、コロナで状況が一変しました。顧客との交渉はリモートとなり、チームメンバーはワールドワイドに分散することになりました。それだけではありません。世の中が激変する中で、ビジネス環境は目まぐるしく変わり、ビジネスゴールをプロジェクト開始時に見いだすことが出来なくなってしまいました。そのためプロジェクトは、ゴールポストを持ち

ながら走ることを要求されるようになったと思います。

そのようななか、昨年80名のメンバーを率いてシステムを開発することになりました。上記のような状況を考えると、プロジェクト成果物が未定のまま走るという種類のアジャイル開発一択です。それを実現するため、図1の「今回の体制」のように、システムの要件定義をする権限を各チームに移譲することにしました。なお、4名で1チームとしました。チームとして協働しやすい人数だからです。私はプロジェクト全体をリード(調整)するロールを担いました。全体としてもビジネスゴールの調整、システム稼働後のKGI設定の調整です。ユーザ部門の代表であるプロダクトマネージャーとの折衝は「2チームに1人、折衝担当(要件定義、チーム間の開発機能の重複や相互補完を担保するロール)」に担ってもらうことにしました。なお技術的な統制を効かせるために、技術リード(チーム間のインタフェースやデータ構造・試験方法を統一するロール)を置き技術チームを率いて頂きました。

PMツール研究会
代表
野村 和哉



この体制は、かつてのPMが持っていた多くの権限を、各チームメンバーに移譲したものです。言い換えると、プロジェクトには多くの船頭が率いた小舟の大群がいるということです。PMは、つねに小舟たちが航路を外れて進んでいないか見ながら、全体を導いていくということになります。そのための基礎的な技術は、モダンPM時代と大差はないのですが、見る範囲がビジネスサイドに広くなり、確認間隔は短くなりました。PMBOK®は第7版で大きく内容が変わりましたが、まさしくこのような状況を予測したうえでの見直しだったと感じています。

このように、これからのPMは、より状況に適応してプロジェクトを間接的にリードすることが求められるのではないかと思います。次の5年は、どのような未来になっているのか、楽しみながら進化していきたいと思っています。

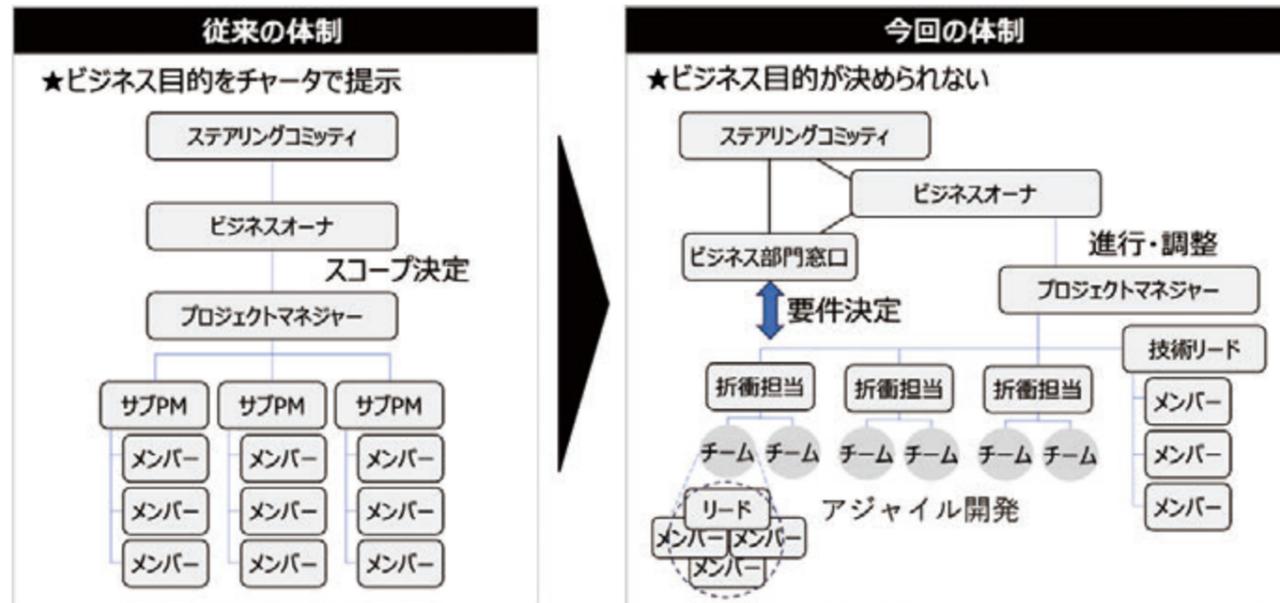


図1 今回の体制

「シニアPMはバーチャル町内会の夢をみるか?」

「シニア領域でもPMが必要になってくると思います」

入会間もないルーキーの自分が、生意気にもPMI日本支部の座談会で偉そうに語っていた5年前。実際に5年経過した現在、世の中はどうなったのでしょうか?

AIの台頭や、国内産業の停滞などある程度予想がついていたものもあります。反対に、当時は誰も予想できなかったことも起きました。コロナによる緊急事態宣言、安倍元首相の銃撃、ウクライナ問題…。オンライン会議システム、スマートスピーカー、自動運転、メタバース、ChatGPTなどの目覚ましい技術革新が日常生活に浸透してきたことは私の予想を超えていました。

プロジェクトマネジメントにおいては、益々「移ろいやすく」「不確か」「複雑」「曖昧」というVUCAな状況が増えつつあるように感じています。さらにいうと、計画を遵守することが難しいだけでなく、しっかり計画を遵守できたとしても、すでにお客様や社会が求めるゴールが変わっており、価値実現できない失敗プロジェクトも散見されます。

そんな中PMIは、「価値実現」の重要視、ディスプリンド・アジャイルの取り込み、スチュワードシップといった概念の導入など、時代の流れに対応できているように感じています。日本支部内でも、SDGs スタートアップ研究会、DAコミュニティ、AI@Work、未来創発コミュニティ、建設コミュニティなどが新設され、新しい潮流を感じています。

さて、5年前に私が予想していた「シニア領域でのPM活用」についてはどうでしょうか?

私自身、IT企業を退職し、現在はシニアビジネスに取り組んでいます。具体的には「終活」支援として身元保証や死後事務処理などのワンストップサービスの販売です。奇しくも2023年の新春特別セミナーは「『終活』というプロジェクトマネジメント」という内容でした。周りを見ると、退職後も、町内会、地元の

草野球チーム、ボランティアなどシニアの活躍する場所はたくさんあります。そういった場所で生き生きと活躍していくためにも、PMは重要なライフスキルであると実感しています。

ソーシャルPM研究会
代表
大久保 剛



年	世の中	自分自身	ソーシャルPM研究会
2018	日産ゴーン会長逮捕 安室奈美恵引退 森友問題 20名処分	ITコーディネーター 取得	実践WS 年6回開催 ソーシャルPMコミュニティ交流会開催
2019	天皇陛下即位、令和元年 ラグビーW杯 日本8強入 京アニ放火 36人死亡	キャリアコンサルタント 取得 スクラムマスター 取得 プロダクトオーナー 取得	実践WS 年3回実施(リアル) ソーシャルPMコミュニティ交流会開催 大学向けソーシャルPM講座実施
2020	新型コロナウイルス 緊急事態宣言 菅内閣発足 鬼滅の刃 ヒット	育毛プロジェクト 完了 妻とブルネイ旅行	実践WS 中止 orz 大学向けソーシャルPM講座実施(オンデマンド)
2021	東京五輪 最多58メダル 岸田内閣発足 大谷翔平 メジャー MVP	終活ガイド2級 取得 沖縄旅行(ダイビング)	実践WS 年2回実施(オンライン) 部会メンバー向け英語版WS実施 大学向けソーシャルPM講座実施
2022	安倍元首相 銃撃 サッカーW杯 日本熱戦 知床観光船沈没	終活ガイド1級 取得 心託コンシェルジュ 取得 沖縄旅行(ダイビング)	大学向けソーシャルPM講座実施 (本年度で契約終了) ソーシャルPM手法見直し着手
2023	G7 広島サミット開催	Toast Masters Club 入会	部会メンバー向け勉強会 実施

表1: 2018年から5年間の主な出来事

自分自身の「シニア」プロジェクトとしては、2019年5月～2020年10月の1年半で、「育毛プロジェクト」を実施、成功させました。

TVCMで有名な某サービスの2020年発毛コンテスト全国大会に出場。優勝賞金300万円をゲットする気満々だったのですが、新型コロナウイルスの影響で中止となってしまいました。残念。

しかしながら、超高齢化、少子化、核家族化が進行中の日本社会においては、シニアの人口増に伴い、こういった若さ

と健康を保つことにも「目標や計画を立てて進捗を確認しながら実施していく」PMスキルの活用機会が増えていくのではないのでしょうか?

さらに5年後の2028年、シニアが学びたいスキルの第一位がプロジェクトマネジメントになっている!

…とは言い切れませんが、そうやっていくよう今後も学び続け、PMの普及に努めていきたいと思っています。

写真1: 私の「育毛プロジェクト」の Before/After

Before: 2019年6月8日

After: 2022年11月13日



生え際が後退し髪にコシがない。

生え際が復活!髪にコシとハリが出ている。

早いもので、あの座談会から5年も経過してびっくりです。

この5年間では、コロナ禍をきっかけに社会全体が大きく変わりました。働き方の観点で言えば、ここまでテレワークが広がると考えていませんでした。(むしろ、当時はテレワークしていると仕事をせずサボっているのではといった懐疑派も一定数存在した時代でした(笑))

今ではテレワーク環境がないと成り立たない、そんな世の中になってきたと思います。PMの世界も同様で、プロジェクトにはリアルでなくオンライン参加するメンバーがいるのが当たり前になり、従来の対面/電話/メールを中心としたコミュニケーションだけでは対応出来ず、Web会議ツール/チャットといったオンラインでの気楽なやり取りが当たり前になりました。

さらに、オンラインならではのスキル

プロジェクトマネジャー(PM)を専門としない職種変更をしてから、既に8年の月日が流れました。けれども私はまだPMI日本支部のアクティブ会員ですし、今回で4回目となるPMPの更新も終えたばかりです。PMPホルダーで居続ける理由は、もちろん、自分のキャリアにプラスになっていると実感しているため、この先、5年後10年後も維持するために、地道にPMスキルを磨いて行こうと思っています。

ではなぜ、PMが本職ではなくても、PMスキルはキャリア・アップにメリットがあるのか?

私は現在、クラウド技術チームのマネージャーが本職ですが、その傍ら、"IBM Technology Showcase"と呼ばれる部門横断型プロジェクトのPMも担当しています。

私が所属する事業部は、サービスデリバリー部隊を持たないためPMを本職とする人はおらず、PMPホルダーを見つけるのが難しい状況です。そのよ

(例:緊急度や理解度に応じて適切なツールを使い分ける、Web会議で相手に伝えるための工夫等)も必要になってきたのは、PMだけでなく、社会全体で大きく変わってきたことだと感じます。

さて、改めて5年前の座談会資料を読み返すと「AIのPMとリアルPM」といった論点で議論してました(笑)。当時は夢みたいな話だと感じていたのが…昨今のAI技術等がさらに進歩したら…。もしかしたら本当にそんな時代がやってくるのかも!?と感じるぐらい、近年の技術進歩は激しいと思います。

今後、10年後を見据えて何か行動を…と言われても、変化の激しいVUCAな時代です。5年前の私が現在の状況を予測して、何か前もって行動できたか?と言えば、決してそのようなことはありません。

きっとみんな、日々変わる世の中の

うな中、横の部門間で連携し、製品同士を組み合わせてより価値の高いデモを開発するプロジェクトを立ち上げるようになった際、PM経験のある私に白羽の矢が立ちました。

プロジェクト管理をする上で、その技法である「PMBOK」の知識を持っていることはとても大きく、何を管理すべきか、何をやらないのかをきちんと初めに定義し、ポイントを押さえて取り組めたことは、本業と兼任しつつプロジェクトを成功に導けた要因の一つであったと自負しています。

20周年記念誌では、「AIのPMはあり得るのか」、「AIのPMにメンバーがついて行こうという気になるのか、リアルPMを選ぶのか」といった話題が上がりました。最近、ChatGPTの登場により再びAIが注目されています。成功したプロジェクト、失敗したプロジェクトの両方から大量のデータをAIが学習をすることで、優れた判断ができるAI版PMが生まれることは、5年後はな



BA研究会
谷 徹也

状況に合わせてもがきながらも、どう対応すれば最適かを模索し自ら考え行動してきた結果、今の状態が形成されていると思います。

今後、もしかしたらAIのPMが登場し、プロジェクト活動をリードすることも出てくるかもしれません、シンギュラリティが到来するかもしれませんが、そういった時代の到来に恐怖するのではなく、AIの強みを活かし、人間ならではの強み・温かさと共存していくことで、時代にFitしていくことが大切だと改めて感じました。



セミナープログラム
野々市谷 有里

くても、10年後にはあり得るのかも知れません。とは言え、PMのスキルとそれ以外の本職のスキル、両方を兼ね備え、それらを掛け合わせて業務に活用できるAIの誕生というのは、まだまだ先になるのではないかと思います。

PMが本職ではない人でも敢えてPMの知識・スキルを得てPMPを取得することで、この先の仕事の幅を広げることには確実に繋がって行くと私は信じています。それらの知識スキルは、他の人との差別化となり、自身のキャリアを築いていく上でかなり大きな武器になるのではないのでしょうか。

未来創造プログラム

PMI日本支部 理事 組織拡大委員会 杉原 秀保

■活動概要

未来創造プログラムでは、次世代を担う20~30代の若い世代の方達(ネクストジェネレーション層)に対してPMI日本支部の活動内容を知っていただき、プロジェクトマネジメントを中心としたPMIの提供価値を届けることを目的に2020年から組織拡大委員会が担当し活動しています。活動初年度の2020年は、若者のニーズや行動特性、価値観などの情報収集・分析を通じて企画の検討準備を実施し、2021年から若い世代が興味・関心を抱きそうな社会的影響力のあるチェンジメーカー(起業家、社会活動家、実務家等)を講師にお迎えし、「未来創造セミナー」を開催しています。続いて、2022年からは「未来創造ワークショップ」を始め、主に主体的に学習を進めたい学習意欲の高いネクストジェネレーション層を対象にワークショップを行いPMIが得意なPMノウハウを展開しています(2022年以降、4回開催)。更に、2023年から「未来創造コミュニティ」を立上げ、若手PMが実践経験を互いに披露し学び合うことで実務力を引き上げ、CAPMなど共通の目標とする勉強会などを通じて、相互研鑽するコミュニティ活動の場を構築。推進役リーダーもネクストジェネレーション層から選出するなど、主に20~30代で構築されるコミュニティの場としています。

今後も、「セミナー」、「ワークショップ」、「コミュニティ(交流機会)」を3本柱とし、将来的に当支部に活力を与える若手層の定着・拡大を目指してセミナー・ワークショップの定期的な開催を通じた「認知向上」と「参画意欲の醸成」を図るとともに、交流機会を設けることで、より深いレベルで参画するネクストジェネレーション層のエンゲージメントを強化していきます。

■未来創造セミナー

未来創造セミナーは、若年層のPMI活動への興味関心・認知度向上を図るため、社会的影響力のある起業家や社会活動家、実務家を講師に迎えるものです。ターゲット

未来創造セミナーの講演実績

タイトル講演	講師	申込数(参加)
1 「1on1で心理的安全性の高いチームをつくるよ」	島田 友和 氏	80 (35)
2 「危機をチャンスに変える経営〜コロナ禍を経て飛躍する日本観光のポテンシャル〜」	加藤 史子 氏	71 (51)
3 「夢の力で切り拓く未来〜教育xSDGsを通じて実現する世界平和〜」	中野 徹文 氏	38 (24)
4 「ポストコロナ時代の変化を生き抜くキャリア戦略」	森本 千賀子 氏	53 (38)
5 「国内最難関プロジェクト(グレートトラバース3)の成功要因とプロジェクトへの想い」	田中陽希 氏	257 (144)
6 「THE NORTH FACEの妥協なきFOOTWEAR開発」	木村 康文 氏	120(60)
7 AI時代に勝ち残るための条件	豊原 和紀 氏	183(106)
8 目指せ!対話の達人	伊藤 尚樹 氏	99(55)

ト層であるZ世代、ミレニウム世代の嗜好や関心事を調査し、世の中に新たな価値を提供し、社会的影響力のある講師を迎え、2021年は5回、2022年は3回開催しました(開催実績は、下表参照)。セミナーテーマは、プロジェクトマネジメントにとどまらず、仕事や生活に役立つ幅広いテーマを扱い情報提供することで多様なニーズに応えながら、多くの方(2023/6現在:全8回、900名の申込み)にご参加いただきながら取り組みを拡大してきました。



グレートトラバース3を達成された田中陽希氏の講演告知

■未来創造ワークショップ

「未来創造ワークショップ」では、「未来創造セミナー」等に参加したネクストジェネレーションを対象に、ワークショップで参加者の身近な活動や仕事に絡むプロジェクトを発表し議論することにより、プロジェクトを理解しさらにプロジェクトマネジメントに興味を持ってもらうことが狙いとなります。このワークショップは、PMBOK®ガイドのような標準をすぐに理解してもらうことは難しいので、メンバーが開発した「プロジェクトシート(下図)」を用いて、プロジェクトマネジメントの概要を理解していただく入門編となります。

プロジェクトシートの例



プロジェクトシートは、プロジェクトの目的、およびスコープ、スケジュール、ステークホルダー、品質、資源、調達、

コスト、コミュニケーション、リスク(PMBOK®ガイドの知識エリア)を1枚のシートに表したものであり、参加者の仕事や生活において、自分が実施するプロジェクトを一目で表現でき、マネジメントする観点を理解することができます。なお、シートは参加者がどのような環境でも利用していただけるように複数のフォーマット(パワーポイント、エクセル、メモ帳)を用意しました。

ワークショップでは、参加者にプロジェクトシートの使い方を理解していただくために、誰もが分かりやすいテーマである“受験”をプロジェクトのサンプルとしてファシリテーターが説明し、各自がプロジェクトシートの目的、スコープ、スケジュール、・・・と順次記入し、全体で発表するという進め方をしました。1時間半という短い時間で行いましたが、「目的、スコープ、スケジュール」、「ステークホルダー、品質、コミュニケーション」、「資源、調達、コスト」、「リスク」、「重要度」の5つのワークをテンポよく進めることによって、参加者は負荷もなく、楽しくワークショップに参加いただけたようです。特にプロジェクトマネジメントをよく知らない方は、自身の経験と、サンプルを対比しながら直感的に理解していただくことができました。

ワークショップは、2022年は5月、8月の2回行い、多くの方に参加いただき、高い満足度(2回とも5段階評価で4.6点)を得ることができました。実施後のアンケートでは、「プロジェクトシートは初学者が無理なく作成することができた」、「より身近な例を元にプロジェクトの考え方、進め方を体験できた」、「ワークショップ形式で受講者にも発表の機会をいただけたので、より前向きに目的を達成する気になりました」、「参加された方々の発表内容がさまざま、自分にはない考えも多く、聴いていて勉強になりました」等のポジティブな評価が多くありました。また、「もう少し上のレベルも受けてみたい」、「プロジェクト進行を実際にやってみるのも面白そう」などのステップアップした学習や、実務的な体験を望む声もありました。このニーズに対応するために、12月によりレベルを上げた「未来創造ワークショップ(初級編)」を開催しています。入門編のアンケートで品質、資源、リスクの観点が難しいという意見を受けてその領域を深掘した結果、入門編と同様に高い評価となりました。こうしたワークショップによって、多くのネクストジェネレーションにプロジェクトマネジメントに興味を持っていただくことができ、コミュニティなどの次のステップに参加したいという希望者も出てきました。今後もプロジェクトマネジメントを理解していただくためにネクストジェネレーションへのワークショップを継続的に実施していきたいと思えます。

■未来創造コミュニティ

「未来創造コミュニティ」では、「未来創造セミナー」、「未来創造ワークショップ」等に参加したネクストジェネレーションを対象に、プロジェクトマネジメントをより深く学ぶため実践経験を互いに披露し合って実務力の引き上げや、CAPM®など共通の目標とする勉強会やネットワーキングなどを通じて、相互研鑽することを目指しています。



未来創造コミュニティは共通理念を“Com - Learn”に掲げ“共に学ぶ”を創出する場を目指しており、いわゆる“先生”や“授業”は存在せず、コミュニティメンバー間での「学び合い」を軸に活動しています。



“互いに経験や知識、教訓を教え合い”→「実務で活かし」→「また教え合う」→…”このループをコミュニティで実現していきたいと考えています。



まだ立ち上げて間もないコミュニティですが、現在はPMI会員、非会員問わずコミュニティメンバーを募集しており、30名を超える方々で活動を進めています。主な活動として、定期的な月例会があります。月例会ではコミュニ

ティメンバー間の交流をメインとし、お互いのプロジェクトの成功体験や失敗体験・悩みのシェアなどを行っています。今後も運営メンバーを拡充し、さまざまな取り組みを行っていく予定です。コミュニティの活動を通じ、プロジェクトマネジメントの学びを深め、多くのネクストジェネレーションが日本のプロジェクトを牽引していけるような取り組みを続けていきたいと思えます！



6月の活動後の写真

■プロモーション活動

また、未来創造セミナーではPMI日本支部を認知していないネクストジェネレーション層に届けるためのデジタルマーケティング施策として、ターゲットとするネクストジェネレーション層の情報収集手段に沿った施策を実施しています。既存会員のメール案内だけでなく、GoogleやSNS(Instagram, Facebook) 広告を効果的に活用し、PMIを認知していない層に対してもプロモーション活動を展開しています。また、セミナー実施後の受講者アンケートを通じて満足度評価やニーズ分析を行うなど、更に若手層とのエンゲージメントを深めるための企画を提供するための研究に活かしています。

■プロジェクトマネジメント報告書

私たちが試行錯誤しながらこの2年間で実施し得た知見は、プロジェクトマネジメント報告 Vol.3にて以下の2点を発信しています。

「次世代に向けたプロジェクトマネジメント伝承の取り組み」、「日本支部での若者への効果的なマーケティングアプローチ」

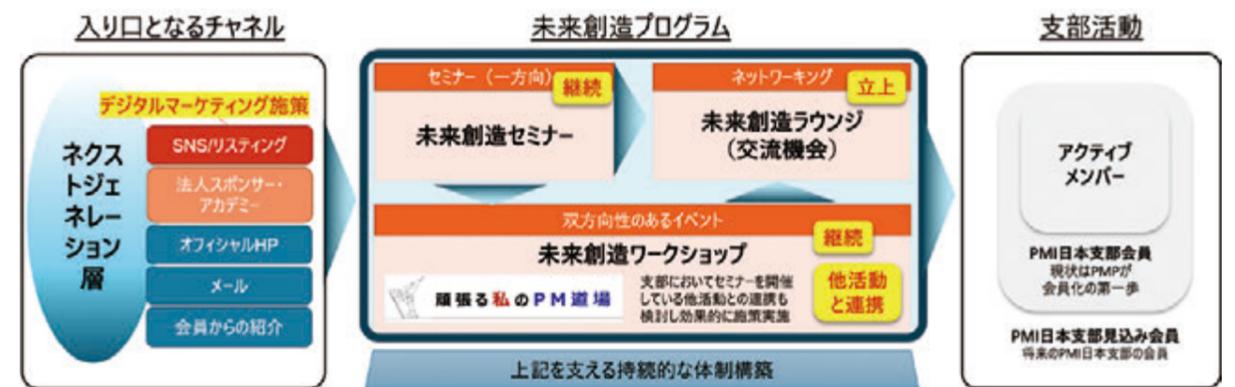
前者は、プロジェクトシートを用いたプロジェクトの可視化と理解をテーマに活動の全体像をご紹介するとともに、当プログラムのオリジナルコンテンツである「未来創造ワークショップ」の取り組み内容の教訓をまとめています。プロジェクトに少しでも興味を抱いた若者層に対して、自分の生活や仕事とプロジェクトに接点をもっといただけるように工夫しています。

後者は、PMI日本支部の存在を知らない潜在層に対してマーケティングアプローチとして実施した施策、および今後、当支部がとるべきマーケティングの方向性を考察しています。従来は、イベント開催時には支部のホームページや支部のメーリングリストを使いイベントを告知していましたが、そもそもPMI日本支部を認知しない若者層へのアタッチはできていない状況でした。当支部を知らない若者層に対して、ソーシャルメディアを活用したマーケティングの取り組み結果をまとめています。

2つのレポートで報告した内容はまだ道半ばですが、ここで得られる知見は、世の中の多くの同様の社団法人・組織においても活用できものと考えています。

■最後に

若手層の巻き込みに絶対的な正解はなく、短期的に成果を出せるものではありません。だからこそ、私たちは継続的に活動し、反復しながらより効果的で持続的な体制構築を目指しています。私たちの活動は、メンバーのボランティア活動で成り立っており、私達自身も、意欲的にチャレンジしていく中で、PMI日本支部のボランティア活動による社会貢献と自身のキャリア成長の両面によってサステナブルな活動が担保されると考えています。今後も試行錯誤した結果を報告しながら、メンバーのプレゼンス向上と共に、PMI日本支部に関わる全ての方に有効な知見を提供できるよう尽力していきます。興味をお持ちの方は、お気軽にPMI日本支部事務局までお問い合わせください。



女性コミュニティ発足への思いと女性PMの未来を語る

女性コミュニティの発足を振り返り

小川原 ●ポロシャツ着用で集まっていたが、有難うございます。今日は、PMI日本支部創立25周年を記念して、女性コミュニティ発足への思いとこれからの女性PMに期待することを語り合えたらと思います。PMI日本支部には元々、女性コミュニティの前身となる研究会があったのですよね？

浦田 ●はい。2012年に女性PM活躍推進プロジェクトが立ち上がり、先駆的な取り組みとして注目を浴びました。その後、コロナ禍によってオンラインでの集まりを余儀なくされた期間を経て、PMI日本支部の新しい活動形態である「コミュニティ」として生まれ変わったのが女性コミュニティなのです。

小川原 陽子 ●おがわら ようこ

日本アイ・ピー・エム株式会社 アソシエイトパートナー/Japan PM Profession Leader
PMP®, PMI日本支部理事
1998年の日本IBM 入社以来一貫してヘルスケア領域のお客様を担当し、プロジェクトマネジメントに従事。2021年に現職に就任、Japan PM Profession LeaderとしてIBMグループ全体のPM Capabilityを向上させるための取り組みや認定制度の運営を行なっている。
2022年よりPMI日本支部理事。女性コミュニティ代表、戦略運営委員会メンバー。

永合 ●コミュニティの形態を採用したのがポイントなのですよね。

浦田 ●そうです。プロジェクトの形態を取ると、どうしてもアウトプットを創出することがゴールになってしまっ。繋がりを構築したり、ひとつのテーマにじっくりと取り組んだり、逆にさまざまなテーマを少しずつ取り上げたり、といった活動にはコミュニティ形態の方が向いていると考えたのです。

小川原 ●それで、ちょうど理事に就任したばかりだった私と永合理事にお声がけいただいたのでしたね。それまでは、浦田理事が一人で切り盛りされていたのですよね。

浦田 ●そうなのです(笑)。女性PMにインタビューして

永合 由美子 ●なごう ゆみこ

特定非営利活動法人日本女性技術者科学者ネットワーク(JNWES) 副代表理事
特定非営利活動法人女子中高生理工学系キャリアパスプロジェクト(GSTEM-CPP)代表理事
PMP®, PMI日本支部理事
ライオン株式会社にて衣料用洗剤開発担当後、新規事業の商品企画・育成に従事。2010年より東京大学に活動の場を移し、プロジェクトマネジャーとして産学連携を推進しながら、NPO活動や地域活性化活動にも関わる。2022年よりPMI日本支部理事。女性コミュニティ副代表、広報委員会メンバー。



浦田 有佳里 ●うらた ゆかり

国立研究開発法人情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究所
ナショナルサイバートレーニングセンターにて企画や調査活動を行う。PMP®, CBAP, 公認システム監査人、
情報処理安全確保支援士、一財)認定コーチなどの資格保持。
金融をはじめさまざまな業種のシステムの開発を行う。R&Dや経営企画での活動も行う。ここ数年は
国の研究所での活動を行う傍ら、スマートシティや 政府連携、地方自治体のデジタル&グリーンの支援
に携わり、自治体のCDO補佐官や戦略デジタルマネージャなどを担う。
PMI日本支部理事。副会長、ミッション委員長、地域サービス委員会担当、女性コミュニティ副代表。

ウェブサイトに掲載して、ワーキンググループを企画して、といった活動を一人で始めていました。

小川原 ●私は二つ返事で了承しました。実際のプロジェクト現場における女性PMが少数派であるというのは常々感じていましたし、所属企業や業界の枠を超えてさまざまな女性リーダーが交流し、刺激しあう活動というのはプロジェクトマネジメントの世界だけでなく、日本社会の発展にも貢献できると思いました。

永合 ●でも、最初は探り探りで大変でしたよね。

小川原 ●そうでしたね。運営メンバーの皆さんの熱心な活動のおかげで毎回の定例会が大変盛り上がるようになり、ポジティブな感想やコメントをいただけるようになったのは有難いことです。

浦田 ●昨年末に法人スポンサー連絡会や部会リーダー交流会で小川原理事が女性コミュニティの活動を紹介したのも、大きかったと思いますよ。そこからビジビリティがあがって、熱心に活動していただけるメンバーの入会につながったと思います。

永合 ●いろいろなところで「女性コミュニティ、さまざまな活動に取り組んでいますごく楽しそうだね」と言われることが増えました。

小川原 ●ビジビリティといえば、PMI APのリージョンミーティングでも永合理事が女性コミュニティの活動を紹介されました。

永合 ●そうでした。リージョンミーティングでは、APの

他の国の様子も知ることもできました。モンゴルではかなり女性や若年層の比率が高いと聞き、驚かされました。

浦田 ●国ごとの特徴ってありますよね。日本はもう少しプロジェクトマネジメントが身近になれば良いのにとすることがあります。女性ならではの、失敗してはいけないと思うあまり、プロジェクトマネジメントに対して身構えてしまうことがあるように思います。

小川原 ●そうですね。身近に感じて挑戦してもらって、さらに上のレベルを目指してもらいたいです。PMの仕事って、期限内予算内に成果物を納めるに留まらず、経営的視点で物事をみていくことが重要になってきていると思うのです。お客様の経営において短期的のみならず中長期においてこのプロジェクトの成功がどのような意味を持っていて、だから何に優先順位をおく、というようなことまで分かってくると、PM業がもっと楽しくなってくると思うのです。

浦田 ●PMBOK®も第6版あたりからビジネス的な視点が重要視されてきて、タレントトライアングルでもビジネスアキュメンやパワースキルって言われてきている流れですよね。与えられたゴールに向かってやり遂げるだけではなく、自分たちでより良い方法を見出して、物事を動かしていける能力って大事ですよね。

永合 ●そういう意味では、PMに求められるスキルの幅が広くなり、レベルがあがってきているとも言えますよね。

女性PMの未来、どうしていきたい？

浦田 ●さて、これからの女性コミュニティ、どうしていきたいでしょうか。女性PMの未来の活躍を後押しする活動をしていきたいですね。

永合 ●女性コミュニティのメンバーの皆さんをみると、皆さん社会貢献とかそういう意識がすごく強いですよね。パラレルキャリア的な選択をされて、SDGsのような活動を積極的に行なっていく方が増えていくような気がします。

小川原 ●良いですね。昨年実施して好評だった、プロボノ活動のようなことも継続していきたいですね。一方で、経営層に近い意識を持ったり、視野を広げたりするための取り組みもやってみたいと思います。政府が推進している女性版骨太の方針でプライム上場企業の女性役員比率の目標を掲げている通り、日本が世界で存在感を

発揮するためには、女性の活躍が不可欠だと思うのです。
浦田 ●CXOの視点を持つということですよね。そして、自分の価値を高め、その対価を得られるようになったら素晴らしいですよね。

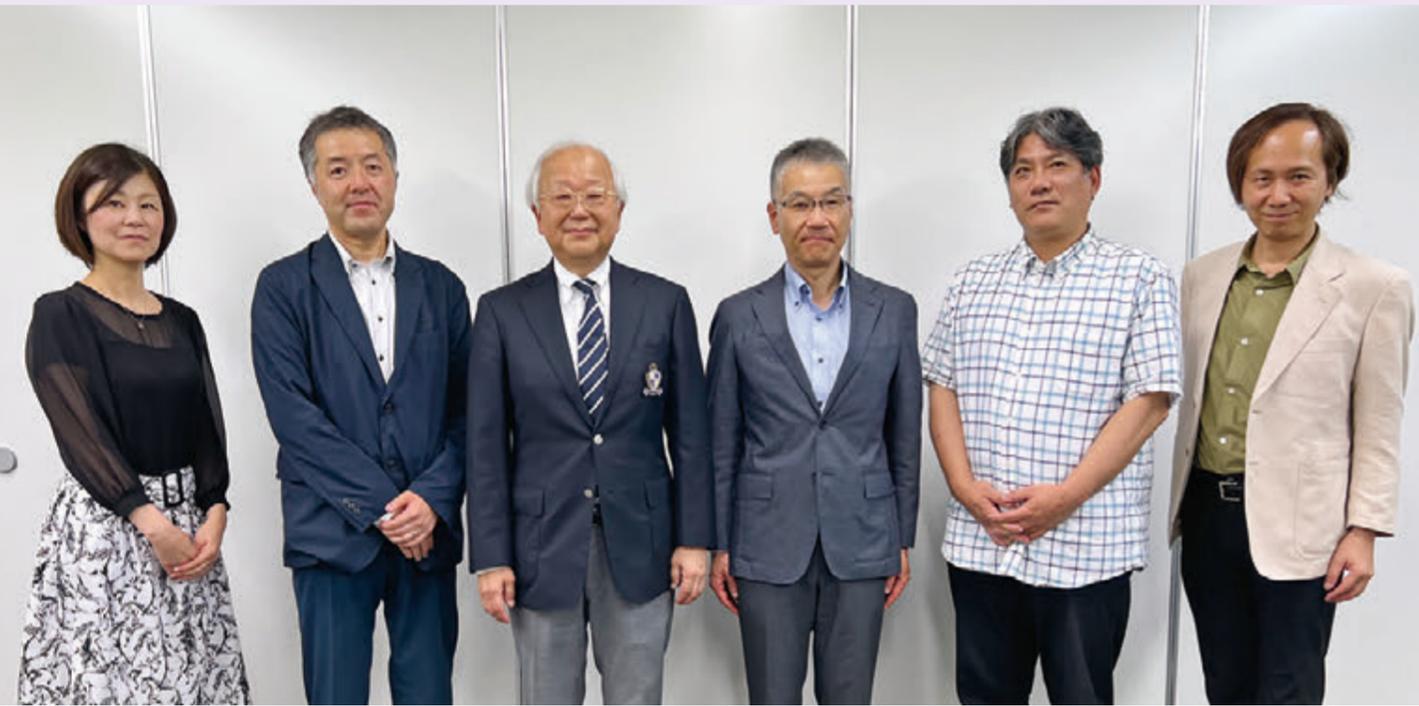
永合 ●例えば、女性の経営塾みたいなのはどうでしょう。
浦田 ●経営層の輩出、女性コミュニティから経営トップへってワクワクしますね。PMI日本支部も経営層への訴求を強化していきたいという思いがありますので、リンクした活動もできそうですね。

小川原 ●では、早速企画しますか。フットワークの軽さが身上了です。それと、今後の季節イベントの詳細も詰めないとですね。やりたいことが沢山あるので、これからもよろしく願いますね。

浦田 ●永合 ●了解です！

PM Award 未来への構想

未来創造に繋がる日本国内および、日本企業・団体による優れたプロジェクトを表彰する制度として、2021年にPM Award がスタートしました。創設から3年目を迎えた今年、当時の立ち上げメンバーと今を引き継ぐメンバーで「PM Award に対する想い」と「これから」について語っていただきました。



PM Awardの立ち上げ

中村: 初めに、PM Awardの初代企画者である片江さんから、Awardの目的と背景をお聞かせください。

片江: PMIの各支部のフォーラムに参加していると、台湾、香港、ハワイ、サンパウロ支部のほか、支部ではありませんが中国でもアワードを開催していました。その他各支部の表彰イベントを見て感じたことは、アワードで評価されることがプロジェクト推進者にとって大きなモチベーションになっていたことです。また、台湾では日本企業の現地法人が表彰を受けていました。このようなことから、日本でもアワードを開催してみたいと強く思うに至りました。

中村: 斉藤さんが片江さんからの想いを引き継ぎ、具体的に動かれたのですね。全くの白紙から、現在の形に仕上げるのは容易ではなかったのでは？

斉藤: 完全に白紙からという訳ではありません。内閣府の勉強会にて、PMを日本国内で拡充させるためには、対外的な情報発信が必要である、との認識は共有されていました。当時、片江さん、端山さんとともに、海外の事例を参考にしていました。1年目は、可能な範囲で取り組みを始めました。3年程

度は、活動の継続性を重視し、長期にわたって開催できるイベントを創出することを第一目標としました。

中村: そうして、“PM Award”が現実のものとなったわけですね。先駆者である藤井さんも多くの困難に直面されたことでしょうか。どのような点が挙げられますか？

藤井: 一年間のイベントを計画する際、最初にどのように進めるか、というのが最初の大きな課題でした。会員の方々も巻き込み、一年間のシナリオを作る作業は、多くの困難を伴いました。最終的に、理念が実際につながるのか、大きな不安と期待が交錯する状態でした。

中村: 藤原さんは、立ち上げメンバーから引き継がれたお立場ですが、今、どのような想いで活動されていますか？

藤原: PMI日本支部と同様に、IT関連の方々や建設業の方々など、Awardには特定の業界に所属する方が多く参加されています。プロジェクトは多岐にわたり展開されており、それをハイライトし、更に多くの知見を共有できるよう、PMIが提供するフレーム

ワークを紹介し、より質の高いプロジェクトが実現されることを期待しています。

中村: 端山さん、実際の運営は何名で行われているのでしょうか？

端山: 11名での運営です。ボランティアを募り、1年目と2年目は同じメンバーで運営を行いました。3年目からは3名新たに加わり、より良い取り組みができるよう努力しています。アクティブメンバーは、会員の方々からも選ばれています。

中村: 運営の他に、Awardの特徴はどんなところでしょうか？

藤原: 私が最も重視した点は、最優秀プロジェクトの決定は投票のみで行うことです。通常、審査委員会が決定を下しますが、今回は一般の視聴者の投票も

加味し、最終的には審査委員の意見を排除し、参加者のみで決定することにしました。これにより、皆で決める意義を高めたと考えています。初めは意外な方法と思われましたが、審査委員会の役割としては、最終ノミネートの選定のみを行いました。

中村: 片江さん、この仕組みについて、どうお感じになりましたか？

片江: 審査委員会の役割は、ファイナルステージへのノミネートを決めることでした。ノミネートされた方々はプレゼンテーションを行い、それに基づいて皆で投票し、投票結果でグランプリを選びます。私たちは最初、千人もの人々が聴いて投票してくれるとは考えていませんでしたが、驚くべきことに、千人の方々が細かいポイントまで評価し投票してくださいました。

3年が経過して

中村: 実際に今年で3回目となりますが、斉藤さん、振り返ってみていかがでしょうか？

斉藤: 先程も少しお話ししましたが、PM Awardの運営方針として、第一回は可能な範囲で実施することを目指しました。最初の三年間は、活動の継続性に重

きを置き、長寿イベントとして育て上げることが第一の目標でした。それにもかかわらず、私個人としては、会員中心のフォーラムや、会員・非会員双方が楽しめる内容のフェスタに次ぐ、支部を代表するイベントに昇格したのではないかと考えています。

中村: 藤井さんはいかがですか？

藤井: 2023年度のファイナリストを拝見しますと、多岐にわたる分野のプロジェクトが応募されています。これは、PM Awardが、プロジェクトマネジメントの重要性を一層社会に伝え、その普及・促進に寄与しているという証左です。今後のPM Awardでは、応募団体の特性を活かし、プロジェクトマネジメントの活用領域の拡充に努め、社会に更なる貢献を果たすべきでしょう。

中村: PM Awardを通じたPMIやPMI日本支部の認知度向上についてはどのようにお考えでしょうか？

齊藤: アワードは組織拡大委員会にて企画・運営されています。その目的として、『国内のプロジェクトマネジメントの啓発・普及を促進する』というのがあります。そうした背景から、初めから広く支部外のリソースを活用し、外部への情報発信を重視してきました。これは、従来の『会員サービス・ファースト』の方針とは異なり、新しい支部活動の形を提示するものとなりました。

藤井: さらに、今後のPM Awardは、応募団体それぞれの特性を活かしてプロジェクトマネジメントの領域を広げ、社会に貢献する賞となるべきです。今年度のファイナリストを見ても、多種多様な分野からプロジェクトが寄せられています。

中村: 過去の受賞プロジェクトで、印象に残っているものはありますか？

齊藤: 昨年、ファイナリストとなった清水建設様は2023年4月のJUASアカデミーで優勝され、その後何度かJUASで講演していただきました。その際、受賞後の企業内での変化について伺ったところ、営業活動でこの受賞を紹介しているそうです。

藤井: 私が感じたことは、参加された方々が、PM Awardを通じて深い省みを得ているという点です。多くの方々から、このアワードがよい機会となり、自身の行動やプロジェクトを振り返る契機となったとの声を頂戴しています。これが更に広がることで、多くの方々がこの賞の価値を認識し、各業界での評価も高まることでしょう。



座談会の様子

PM Awardの将来展望

中村: それでは、最後の質問になります。PM Awardの将来についての展望をお聞かせください。片江さんからどうぞ。

片江: 私たちの願いは、プロジェクトマネジメントの影響範囲を広げ、応募団体の規模や業種に拘らず、卓越した多様なプロジェクトを応募いただくことです。これにより、組織的なプロジェクトマネジメントの良例を発信し、広く価値観を育てたいと思います。加えて、審査には海外からもご参加いただき、日本のプロジェクトマネジメントの現状を国際的に発信したいとも考えています。



片江 有利
PMI日本支部 監事
株式会社システムコストマネジメント 顧問

端山: PM Awardには多くの方が登録してくださるため、参加者数の面では日本支部最大の重要なイベントとなっています。今後も、関係者が集まり意見交換し祝福しあうネットワークを重視し、受賞経験者間のネットワークを育て、「PM Award 受賞おめでとうございます!」と言い合える機会を大切にしたいと思います。



端山 毅
PMI日本支部 会長
株式会社NTTデータ 技術革新統括本部
テクノロジーストラテジスト
博士(工学)、PMP

藤井: 私たちは、プロジェクトマネジメントの活用領域をさらに拡大できると確信しています。これは非営利団体、地方自治体、教育機関、医療や福祉など多岐にわたります。PM Awardが社会の発展に寄与する賞となり、応募団体の特性の活用領域拡大につなげ、卓越したプロジェクトの取り組みを社会に広く発信すべきと考えています。



藤井 新吾
PMI日本支部 理事
モバイルコンピューティング推進コンソーシアム 人材育成委員会
講師ワーキング長

齊藤: 長らくPM教育関連の活動をしてきた経験から、「世界中がプロジェクトに溢れ、プロジェクトマネジメントは不可欠な仕事のやり方」と強く感じています。PM Awardを通じて、卓越したプロジェクトを多くの人に紹介し、多様なリソースと協力してPMI日本支部の認知度も向上させる新たな価値を創出したいと思っています。



齊藤 学
PMI日本支部 副会長
スカイライトコンサルティング株式会社
ソーシャルイノベーションラボ
シニアマネージャー

藤原: PM Awardの認知度を更に高め、参加によるメリットを拡大すべく努めたいと思います。グローバル組織であるPMI本部と連携し、国内外で展開し、ステークホルダーへの訴求力を高め、パートナー連携を強化する。これにより、国内外の方々お互いに刺激し合い、より優れたプロジェクトやプログラムを実現する企業や団体が増えることを期待しています。



藤原 慎
PMI日本支部 理事
株式会社NTTデータユニバーシティ
代表取締役社長

中村: 皆様、貴重なご意見、誠にありがとうございました。



中村 亜子
PMI日本支部 理事
株式会社パーソル総合研究所
シニア・コンサルタント

世の中はさまざまなプロジェクトで溢れています。それはビジネス場面だけでなく、学校や地域、そして日々の生活の中にも存在しています。
この特集では、日頃皆さんが携わっているものとはちょっと趣の違ったプロジェクトをご紹介します。

『ゆるく、つながる。』まちづくりプロジェクト

加部 雅之

【プロジェクトの概要】

群馬県前橋市は県庁所在地であり高崎市と並ぶ群馬県の中心都市です。地方経済活性化のロールモデルを目指し、2016年に「めぶく。Where good things grow (良いものが育つまち)」というビジョンを掲げています。私が所属する前橋デザインコミッションは都市再生特別措置法に基づき、民間主体で中心市街地の活性化を担う「都市再生推進法人」として2019年に設立されました。具体的な活動としては、前橋市の官民連携街づく

り指針である「アーバンデザイン(国土交通大臣賞受賞)」の推進、市民が中心となるまちづくり活動(セミナーやイベント)の企画運営、市街地の遊歩道を市民の名前を刻んだレンガで埋め尽くす「レンガプロジェクト」の推進などを通じて、市街地の活性化の一翼を担っています。

なかでも直近の大きなプロジェクトは「馬場川通りリニューアルプロジェクト」です。前橋市中心部の国道50号から一本入った全長200メートルの「馬場川通り」の道路および遊歩道公園を民間の資金で改修するという前例の無いプロジェクトで、2021年より本格的に活動を開始し、現在は2023年秋の竣工にむけたりニューアル工事の真っ最中です。このプロジェクトの資金は、「太陽の会」という民間団体からの寄付で成り立っています。「太陽の会」は、前橋ビジョンに共鳴し、「自分たちの街は自分たちでつくる」という精神のもと市内に拠点に置く企業家有志により結成され、参画企業は、毎年純利益の1%(最低額 100万円)を前橋市のまちづくりのために寄付金として拠出します。また、運営資金としては、馬場川通りを対象とした地域まちづくり勉強会や社会実験などにより、地域コミュニティの再生及びエリア価値の向上に寄与する事業として、まちづくり分野では全国初となる「ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)」の仕組みを取り入れています。

このプロジェクトの特徴は①ステークホルダーが多岐にわたる点(地権者・住民・店舗・近隣施設や、まちづくりに関わってくれる市民、学校、その他ボランティア)、②土木工事といったハード面だけではなく、まちの活性化という観点からは竣工後の利活用といったソフト面が非常に重要になってくる点です。私の主な役割は、このソフト面で地域との合意形成や市民

の巻き込み、イベントの企画実行などになります。

【感じたこと/感じていること】

一般的に官主導のまちづくりはハード面の整備に注力しがちですが、竣工後も市街地の活性化を目指す本プロジェクトではソフト面を特に重視しています。そのため準備段階から多くの市民の関心をひきつけ、賛同者や参加者を増やしていく活動を行い、着工前からさまざまな企画を実施しています。当該場所は小川が流れる「遊歩道公園」兼「日常生活道路である車道と歩道」です。住民は静かなほうがいいと感じるでしょうし、店舗には賑わいが欲しい。自動車は快適に走り抜きたいでしょうし、歩行者は安全に木々を眺めながら散歩したい、というように、利用者によってニーズが異なります。近隣には子ども図書館などの施設もあり、小さいお子さんやベビーカーの親子も多く、歩行者の安全性にはとても敏感です。

こうした視点の違いを住民や市民が参加するワークショップなどを通じてそれぞれのニーズをすり合わせ、さまざまなアイデアを出し合う活動を地道に続けています。地域関係者以外の外部視点は斬新で「はっ!」とさせられることも多々ありますし、予期せぬトラブルが生じたときに予期せぬヒーローが現れ解決してくれることもあります。こうした活動そのものが人と人のつながりを作り、永続的な心地よさを生み出すものと感じています。

馬場川通りのビジョンは「ゆるく、つながる。」です。これからも多様な関係者を巻き込みながら進化を続けていきたいと考えています。プロジェクトは有期とありますが、今回は延々と続く長い道のりになると思いますので、今後は楽しみです。

【PMPとして】

今回は馬場川通りのリニューアルプロジェクトを取

り上げましたが、その中にも複数のプロジェクトが含まれていますし、前橋デザインコミッションは本プロジェクト以外にも本来のミッションである市街地活性化の役割を担っており、その範囲は更に広がります。そのため、プロジェクト間の整合をとるという点ではプログラムマネジメントを意識する必要があります。また、プロジェクトチームは、参加できる時間や形態がそれぞれ異なるボランティアなど、多様なメンバーで構成されていますので、チームのエンゲージメントをいかに高めるのかという点については常に頭を悩ませるテーマです。まさに「プロジェクトの状況に合わせてテーラリング」していくことが必要になります。当然、当初立てていた計画通りには進まないため、まずはやってみて修正するという試行錯誤の連続です。PMとして学んだことが多少役には立っているかもしれませんが理論と実践にはギャップがありますので、今後進めながら修正を加え続けることになるかと覚悟しています。



馬場川通りと、通りを活用した「馬場川パーク(2021年10月)」の様子



加部 雅之

本業は人材育成会社において人と組織のコンサルティングや研修講師として活動する傍ら、副業で地元群馬県の「一般社団法人前橋デザインコミッション」で、主に地域とのコミュニケーションを担当しています。プライベートでは、サッカーのシニアチームで毎週末プレイしています。趣味は山歩きと日本酒。学生時代以外はずっと群馬県在住、かなり地元好きです。PMP、ITコーディネータ

本プロジェクトに関心を持ってくださった方は是非以下をご覧ください。

前橋デザインコミッション

<https://www.maebashidc.jp/>

前橋ビジョン「めぶく。」

<https://www.city.maebashi.gunma.jp/soshiki/seisaku/seisakuuishin/gyomu/7/2990.html>

前橋市アーバンデザイン

<https://www.city.maebashi.gunma.jp/soshiki/toshikeikakubu/shigaichiseibi/gyomu/kanminrenkeimatidukuri/21179.html>

太陽の会

<https://www.taiyonokai-maebashi.com/>

ソーシャルインパクトボンド

<https://www.city.maebashi.gunma.jp/soshiki/toshikeikakubu/shigaichiseibi/gyomu/kanminrenkeimatidukuri/30858.html>

私たちの技術で干瓢農家を支援したい!

小山工業高等専門学校 機械科5年 伊澤研究室 大森 陽太、品川 篤志、本間 凌央

プロジェクトのきっかけは2022年9月、高専の卒研準備をする授業(プレラボ)で栃木県庁からの相談について聞いたことでした。

栃木県は干瓢の生産量が全国一位ですが、高齢化のため生産量が減っており、高専の技術で改善してほしいということでした。僕たちのチームは、さっそくご紹介いただいた農業法人「みずのえファーム」にお伺いして、切削、乾燥、梱包、発送などの干瓢の生産工程についてお聞きしました。機械科の授業で習った技術を使って「切削工程」を改良できるのではないかと考え、現行の古い皮むき器を持ちかえって改善案を検討しました。

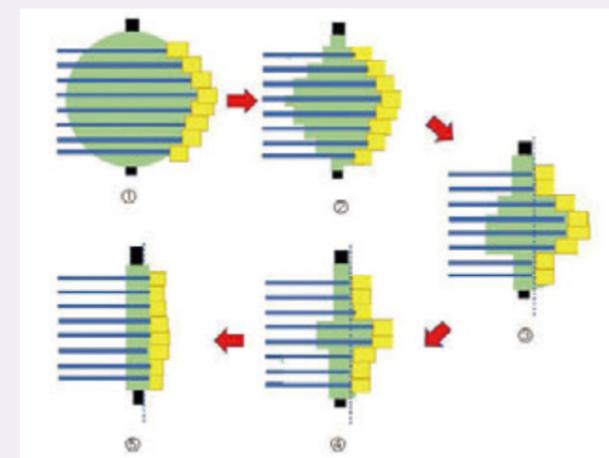
果物の皮むき器はさまざまなものが既に実装されていますが、一級品の干瓢を作るには、長さ1.8から2メートル、厚さ2ミリに直線状に切削する必要があり、従来品によくあるらせん状に剥く方法ではニーズを満たしません。

チームでアイデアを出し合い、2つの改善提案をすることにしました。干瓢の原料になるユウガオの果肉である「ふくべ」の固定方法と削る方法です。従来機は長い棒をふくべに貫通させて固定しますが、ひとつ10キロほどあるふくべに棒を刺す作業は容易ではありません。そこで上下2点で挟むことで楽に固定できるようにしました。また、従来は1つの刃を上から順番にずらして6-7段に分けて切削していましたが、複数の刃をつけて同時に削れば5分の1程度の時間で削れるのでは?と考えました。

固定方法(長い棒を貫通させて回転⇒上下2点で固定)
削る方法(1つの刃⇒複数の刃)

2023年の2月、2つの改良案を「みずのえファーム」

に提示したところ「斬新なアイデアだ」という前向きなフィードバックと「本当に実現できるのか?」という率直な感想もいただきました。チームで話し合っただけのアイデアを実際に旋盤やボール盤などを使って形にします。ふくべの収穫時期は7-8月なので現在実物での実験に向けて試作機を改良中です。生の果物は、大きさ、形、固さ等、個体差が大きいため実物での実験が欠かせません。複数の刃が均等な圧力で果物にあたるようにバネで調整しますが、コストの制約があるためシンプルな機構だけでそれを実現しなければなりません。これから本当に難しい課題の連続だと思いますが、実際に干瓢が削れて農家の皆さんが喜ぶ姿を想像しながら、優秀なチームメンバーと協力して絶対このプロジェクトを完遂したいと思います。



複数刃による切削イメージ

小山工業高等専門学校 機械科5年 伊澤研究室
写真:大森 品川 本間(左から)

名前、出身地、趣味、卒業後の進路、本人から一言

大森 陽太 (おおもり ひなた)

栃木県那須烏山市
趣味 サッカー(プレイ/観戦) サッカーのプレイ経験は12年、特にイギリスのサッカー観戦が好きです。
卒業後の進路 インフラ整備に関わる技術職。インフラ企業への就職が決まっているので、そこで設備の整備や設計に携わりたいです。

品川 篤志 (しながわ あつし)

栃木県宇都宮市
趣味 旅行、野球、写真撮影(風景写真など) 小学生の時から一人旅が好きで、景勝地や温泉地など全国各地へ出かけており、それがきっかけでカメラも趣味になりました。
卒業後の進路 大学進学。大学では材料試験や破壊について学び、将来は精密機器や鉄道車両の設計に携わりたいです。

本間 凌央 (ほんま りょう)

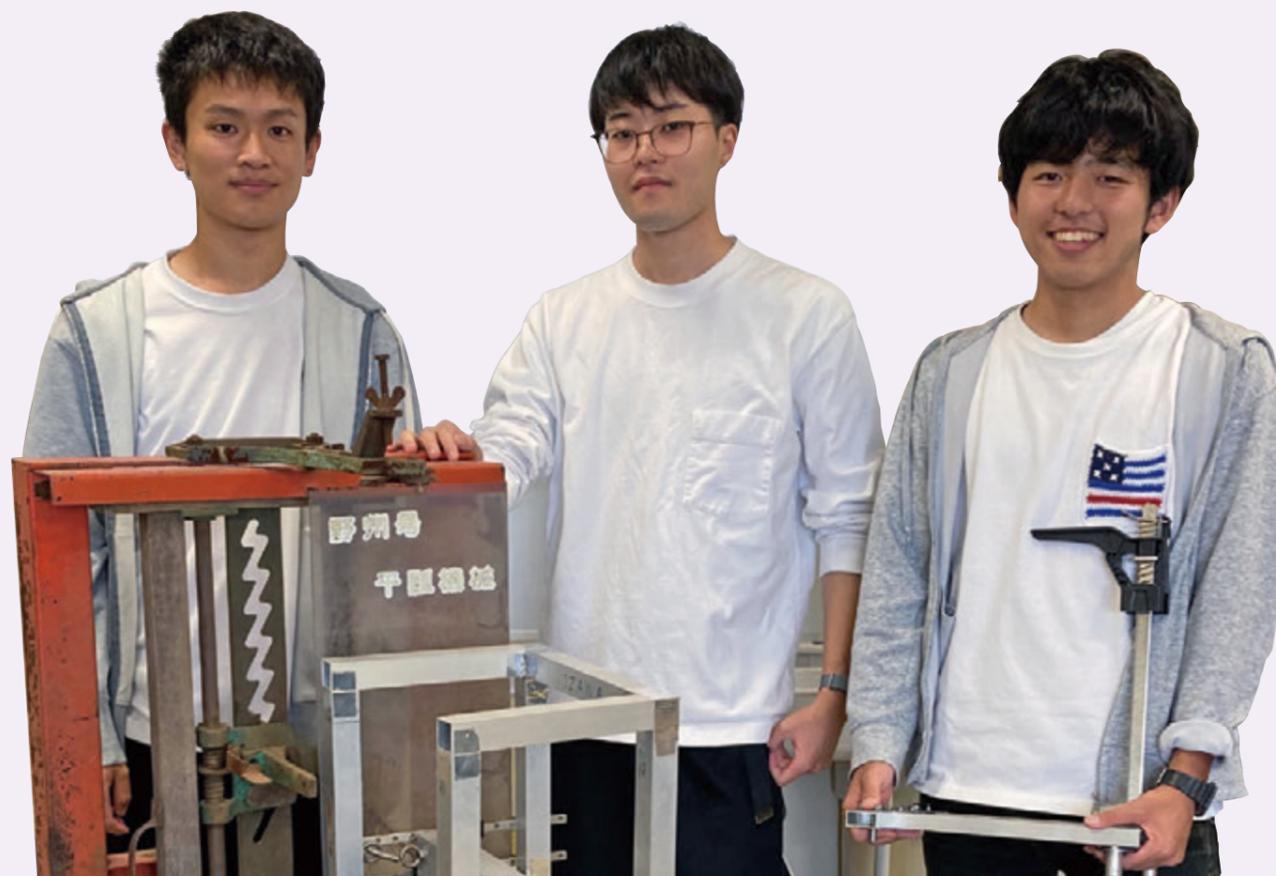
栃木県高根沢町
趣味 ロードバイクツーリング、バイクリペア 自転車で1日200キロ走ったこともあります。また、動かなくなったスーパーカブを購入して、一から組み直しをしたりしています。
卒業後の進路 大学進学。大学では高強度な材料や破壊について学び、将来は自動車や工作機械の設計に携わりたいです。



既存の皮むき機

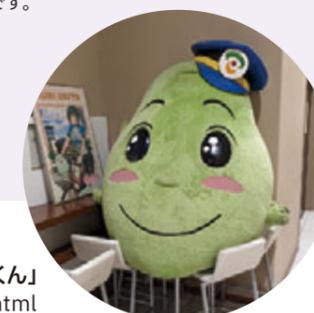


ふくべのダミーと固定装置の試作機



干瓢(かんぴょう):ユウガオの果肉(ふくべ)を細長く剥いて乾燥させた食品
みずのえファーム: <https://mizunoe-farm.co.jp/>
小山高専: <https://www.oyama-ct.ac.jp/>

「道の駅しもつけ」のイメージキャラクター「カンピくん」
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/a03/town/shinkou/shinkou/tochichara/kanpi.html>



ママさんバレーボールチーム、

PTA現役メンバーによる試合出場への挑戦

～プロジェクトマネジメントで夢を現実に～

プロジェクトマネジメントの考え方は、日常生活にも応用ができます。メリットの一つとして、あらかじめリスクを想定し対応することで、計画管理、実行がしやすくなり、期限内にゴールに向かうことができます。私は、PMP®の資格を育児休暇中に勉強し、育児休暇明けにPMP®を取得しました。受験の目的は、育児しながらの仕事の生産性を上げるためにPMP®を役立てることでした。仕事も私生活も充実させたいという思いからの受検でした。

プロジェクトの背景と目標：

今回は、夢を実現させるためにプロジェクトマネジメントを活用した一例をご紹介します。私たちの夢は、平均年齢40代のPTA現役ママさんチームで、「ママさんバレーボール大会」への出場を果たすことです。しかし、この目標を達成するためにはいくつかの困難があります。具体的には、人数不足、経験不足、怪我のリスクなどが挙げられます。私たちはこのリスクに対して、プロジェクトマネジメントの考え方を取り入れ、

チームの成長と大会への参加を実現するために活動しました。

プロジェクト期間：2021年4月～2022年10月
 ゴール：PTA連合主催の「バレーボール大会(10月開催)」への出場!!

チームメンバーの結束とメンバーの勧誘：

まず、一つ目の問題である人数不足について。人数不足を解決するため、新メンバーの勧誘活動に向けて簡単なWBSを活用しました。勧誘活動を行うメンバーには、ワーキングマザーもいれば、専業主婦もいます。コミュニケーションツールとしてLINEを使っており、やり取りが日々会話のように流れていってしまうため、日中仕事をしている私にとっては、いつまでに何をすることが把握しづらい状況でした。そこで、最初に3人を勧誘することを目標に据え、いつまでに、誰が、何を担当するのか役割分担し、線表を引いてタスクを明確にしました。それによってやるべきことが明確になり、活動進捗もその線表をもとに行うことでLINEでは明確な

中村 舞衣子

意思疎通ができるようになりました。また、進捗が思わしくない活動の把握にも役立ち、お互いの認識のずれなく活動ができました。

最初はバレーボール経験者を探しましたが、うまく行きませんでした。うまくいかない原因をチームで話し合い、「ママさん同士で楽しく汗をかこう」という、運動不足の解消とコミュニティ形成に主張を改めることで、2021年に2人、2022年に1人合計3人の新メンバーの勧誘ができ、試合に必要な9人のメンバーを確保することができました。

経験不足の克服と個々の能力の活用：

次に、経験不足を克服するために、バレーボールの基本的な技術とルールを学ぶことにしました。チームメンバーの多くが初心者だったため、ボールに慣れる基礎練習から始め、経験者がサポートしました。練習前半は基礎的な練習をし、後半はポジションを意識した練習を行います。私は、センターポジションのため、アタックの練習に特化しました。初心者、且つ練習時間にも限りがあるため、マイボールを購入し、自宅でも練習し、上達を目指しました。

怪我の予防と回復への取り組み：

練習の進行に伴い疲労や怪我のリスクが高まり、実際に怪我人が続出しました。私自身も肉離れを起こしてしまいました。

練習日(土曜日午後)は、ほとんどの病院が閉まっているほか、すぐに病院に行く必要があるのか判断が難しいこともありました。そこで、初動はアプローチしやすい近隣の整骨院で応急処置を受ける流れを確立し、この機会に誰もがわかるように明文化し、いざというときに、大きな病院へ受診できるように、「#7119」をかけた後の伝え方ガイドも作成しました。

怪我から復帰後は、チーム全体で柔軟体操や体づくりに取り組み、私はそのトレーナー役としてストレッチ体操をサポートしています。

プロジェクトを通して感じたこと

ママさんバレーボールチームが初めての大会に挑むまでの道のりは、困難なものでした。私たちの知識や

技術にはまだまだ不足がありましたが、全メンバーが一丸となり、大会に臨むことができたことは奇跡であるとともに、大きな喜びでした。強豪チームではありませんが、お互いを励ましながらかつ団結力を高め、次なる目標に向かって取り組むことができました。

チームの団結力を高めるためには、目標の明確化が重要です。私たちは「初戦で勝つこと」という目標を設定し、そのための練習を開始しました。この目標は、チーム全体が一つの方向に向かって進むための指針となりました。試合結果に落胆し技術不足を認識しながらも、我々の結束力と努力が次なる目標達成への鍵となると実感しています。

この結束力と目標設定を重視することで、ママさんバレーボールチームは困難を乗り越え、成果を上げることができました。今回のバレーボールのように、日常においてもプロジェクトマネジメントの考え方は役に立っています。ワーキングマザーの方々やマルチタスクを実践しておいでの方々には、これからプロジェクトマネジメントの考え方を身につけることをお勧めしたいと思います。



試合風景



中村 舞衣子

小学6年生と中学3年生の二児の母。ワーキングマザー歴14年目になります。新型コロナウイルスが蔓延し、オフィスでの共働きを前提に暮らしていた住まいから居住型のワークスタイルに転換するため新しい環境へ引越しをしました。慣れない環境で一から関係性を作っていく中で、偶然出会ったのが小学校の「ママさんバレー」でした。もうすぐ子どもが小学校を卒業するため、現役としての活動は終わりますが、その後は、OGとしてチームの発展に貢献したいと思います。

「アイデアを形にする方法を伝えたい！」

米倉 宏晃

翻訳小説のマンガ化プロジェクトについてご紹介したいと思います。2020年4月、大学の後輩経由で子供向けの翻訳小説であるプロジェクトキッズアドベンチャーシリーズ[※]のマンガ化プロジェクトへの協力依頼をいただきました。原作を読んで興味を持ち、特に締め切りなど設けずマイペースで描けるというのでチャレンジすることにしました。私は元々仕事の傍ら戦争漫画を描いて出版しているのですが、それは今でも続けています。

当初から各国語での出版を前提にしているということで、吹き出しの形も横文字でセリフを入れられるよう考慮して絵の構成を考えています。また、日本と欧米の日常文化の違いも意識して絵を描いています。たとえば、日本の学校では教室の扉は引き戸ですが、欧米は開き

戸です。車の走行車線も逆ですし、日本では小中学校のランチは教室で食べますが、物語の子供たちは食堂や屋外で食べるシーンがあって意外でした。

漫画の執筆プロセスは、まずノートに構想を書きます。原作の流れに沿ってページ配分を考え、各ページのコマ割りを決めます。次にマンガ専用のケント紙に鉛筆で下書きをした後、ペン入れをします。1話(2~30ページ)描き上げたところで原稿をスキャンしてパソコンに読み込みます。パソコンでは、漫画専用ソフトを使ってペンタブレットでベタ塗りやスクリーントーンを貼り、キーボードからセリフを入力して吹き出しに配置します。1巻は10話からなるのでこの作業を繰り返し、これまで1年に1巻のペースで現在第4巻を執筆中です。

このプロジェクトは、コロナ禍とほぼ同時期に始まったので、この3年間完全リモートでの分業体制(執筆、翻訳編集、出版)で実施しています。その間、仕事の関係で何度か中国に長期出張(3-5か月)があり、ケント紙や道具を持参して隔離中のホテルでも執筆していま

した。食事は日本の中華料理とは違い、カエルをそのまま煮たものやカイコのサナギが出ることもありましたがさすがにこれらは食べられず、スープだけご飯にかけておじやにして食べました。

今後の目標は、3年後をめどに全6巻を完成させることです。私には5歳の孫娘がいるので、全巻完成した頃にはこの漫画を読んで「面白い!」と言ってもらえたら嬉しいです。また、世代を超えて世界中の人がこの漫画を読んで、冒険物語を楽しみながら「ちょっとの勇気と協力のさああれば誰でも思いを形にできる」ということを知って欲しいです。



米倉 宏晃
(よねくら ひろあき)

1958年宮城県石巻市生まれ
青山学院大学理工学部化学科卒業
陸上自衛隊第7化学防護隊長、第101化学防護隊長を歴任
地下鉄サリン事件、福島第1原発災害に出動
学生時代赤塚賞準入選
「日の丸父さん」「日米中激突!南沙戦争」「漫画クラウゼヴィッツと戦争論」「漫画マハンと海軍戦略」「漫画ゲーデルマンと機甲戦」など



PKAイラスト1



PCを使った作業風景



PKAイラスト2



PKAイラスト3



PKAイラスト4

※プロジェクトキッズアドベンチャーシリーズ

8人の子供たちがさまざまなプロジェクトを経験しながら、いつのまにかPMスキルを身に付けてゆく児童向け冒険小説。作者はPMIニュージランド支部のゲイリー・ネルソン氏。2018年にPMI日本支部の有志で翻訳出版を行い、2020年から年1巻のペースでマンガ化を進めている。各国語への翻訳プロジェクトも進行中で、現在、スペイン語、ポルトガル語、中国語、モンゴル語でも出版されている。

プロジェクトキッズアドベンチャー

<https://www.projectkidsadventures.com/manga-japanese/>

Amazonサイト

<https://www.amazon.co.jp/gp/product/BOCBJKQ99L>



第3章

25周年記念施策 内容紹介

創立25周年記念誌

PMI日本支部創立25周年記念誌は、「新たな四半世紀に向けて」をキーワードに、未来志向の情報発信を意識して制作しました。さまざまな分野のボランティアの方々から寄稿いただいています。

編集:PMI日本支部 創立25周年記念プログラム

創立25周年記念イベント

開催期間:2023年12月9日(土) 13:00~19:30

開催場所:東京近郊の外部施設

部会リーダー交流会と25周年記念パーティをコラボ開催します。創立25周年記念イベントを支えていただいたアクティブメンバーを中心にお集まりいただきます。クリスマスが近いので細やかな景品を用意しビンゴ大会を行うなど楽しく進める予定です。詳細のご案内はホームページで後日掲載します。

主催:一般社団法人PMI日本支部
URL <https://www.pmi-japan.org/25th/>



PMI日本支部創立25周年記念セミナー

公開イベント

「今の時代を生きるスキルとは。明日から使えるマネジメント入門」

開催期間:2023年11月26日(日) 9:50~17:30

開催場所:現地開催

- ◆第1部(セミナー、ワークショップ)
株式会社マネジメントソリューションズ会議室(東京都港区赤坂9)
- ◆第2部(交流会)
「THE KINTAN STEAK」(東京都渋谷区恵比寿4)

第1部で、人との出会いを通じたキャリア構築や今後の時代を生き抜くために必要なコンピテンシーの鍛え方、プロジェクトマネジメントの実践スキルを学び、第2部は人気レストランで交流を深めていただける無料イベントです。

主催:PMI日本支部 組織拡大委員会 未来創造プログラム
URL <https://pmi-japan.eventos.tokyo/web/portal/426/event/7924>



支部SDGs活動

公開イベント

開催期間:2023年12月6日(水) 19:00~20:30

開催場所:オンライン開催

本イベントでは、PMI日本支部の多くの部会が取り組んでいるSDGs活動を報告するほか、チェンジリーダー育成のための22世紀型大学、観啓大学 ソーシャルシステムデザイン学部 学部長 保井俊之先生にウエルビーイング経営についてお話しいたします。

主催:PMI日本支部 創立25周年記念プログラム
URL <https://www.pmi-japan.org/25th/>



PMoA (Project Management of Arts)

公開イベント

スタートアップ・イベント(熱海開催)

【11月19日(日)】

親子で楽しむアート・アウトリーチ・イベント

「楽しく、考える、作るだけじゃないアート・ワークショップ - 子どもと大人のためのやんわり芸術講座」

有料

【11月23日(木・祝)】

対話型鑑賞ワークショップ

「現代アートのわからないを愉しむ~ATAMI ART GRANTの作品を観に行こう!~」

【12月3日(日)】

創立25周年記念“PMoA”セミナー(展覧会ツアー・交流会あり)

「“アート×プロジェクトマネジメント”の新潮流を熱海から発信!」

主催:一般社団法人PMI日本支部
協力:PROJECT ATAMI実行委員会
URL <https://www.pmi-japan.org/25th/?p=410>



行政スポンサー 創立25周年イベント

公開イベント

開催期間:2023年11月29日(水) 19:00~20:30

開催場所:リアルタイム配信、オンデマンド配信

参加無料

自治体職員の方々の興味を惹くテーマでオンラインイベントを開催します。

○「地方自治体のDXを推進するには」 CocreCoコンサルティング合同会社 代表 原 秀樹 氏

○「ウエルビーイングなまちづくり」 観啓大学ソーシャルシステムデザイン学部学部長・教授 保井 俊之 氏

主催:PMI日本支部 創立25周年記念プログラム
URL <https://www.pmi-japan.org/25th/>



短時間映像教材配信

2023年8月よりPMI日本支部のYouTubeチャンネルで動画公開

PMI日本支部では創立25周年を機に、普段お仕事でプロジェクトに関わる方以外にも、広くプロジェクトマネジメントの良さを知っていただき活用していただくために短時間の映像教材配信チャンネルを開設しました。是非ご覧ください。

URL https://www.youtube.com/@Webinar_PMIJ



25周年記念プロモーション

活動期間:2023年2月~12月

創立25周年プログラム全体のプロモーション活動として、PMI日本支部の歴史とこれからの展望した2分の紹介動画やプレスリリース、コラム投稿、PMIJ通信での活動紹介などにサポートメンバー8名で取り組んでいます。

URL <https://www.youtube.com/@PMIJ25th>





25周年記念誌チーム・リーダー
PMI日本支部 理事

中村 亜子

今年、PMI日本支部は創立25周年を迎えました。四半世紀です。シルバー・ジュビリーです。気づけば私もこの25年間のうち17年ほどはPMI日本支部と共に年齢と経験を重ねてきました。そして、この記念すべき節目に25周年記念誌の編集責任者を仰せつかりました(汗)。20周年はこれまでの歩みを振り返る集大成の節目でしたが、25周年では「新たな四半世紀に向けて」をキーワードに未来志向の情報発信が方針として掲げられました。

この5年間、経済や日常生活、地政学においても誰も予想しないさまざまな変化がありました。PMI日本支部も全てとはいかないまでもそれらの変化を受入れ、未来に向けて都度、柔軟に改善・変革をしてきました。本記念誌では、そうしたトピックを中心に5年間の振り返りつつ、その先を見据えた展望をそれぞれの立場でまとめています。

また、私たちは記念誌の内容に関しPMI日本支部の成果や活動について内部の視点に閉じず、これまで接点の少なかった方々にも関心を持ってもらえる工夫をしたいと考えました。そこで、PMI日本支部とまだ接点のない方にも声をかけ、皆さんが日々の生活の中で体験している“プロジェクト”について記事を集め、掲載しました。いい意味で、いわゆるPMBOK®に縛られない多様な視点や捉え方は、私たちに新しいアイデアと情報をもたらしてくれています。

今回の25周年記念誌発刊にあたり、各国のPMI支部代表から温かいお祝いメッセージを数多く頂戴しました。これは、PMI日本支部の国際的なつながりと重要性を示すものであり、私たちが世界的なコミュニティ・PMIのファミリーであることを再認識させてくれました。加えて、国内においても日頃から連携やお世話になっている各方面から続々とPMI日本支部への期待と共に心のコもったご祝辞を賜りました。25年という歴史の中、いろいろな方に支えられているのだなぁと改めて感じ、本当に感謝しかありません。心より御礼申し上げます。

さらに、この記念誌の制作には多くのボランティアの方々が記事を寄稿してくださいました。彼らの貢献により、さまざまな視点からの情報や洞察を提供することができたことは間違いありません。ボランティアの方々の熱意と専門知識に感謝しています。

最後に、この記念誌の制作に関わった全ての人々に感謝の意を表します。特に「記念誌チーム」のメンバーには、進め方で悩んだ時など適宜アドバイスやサポートをいただきました。おかげで25周年を祝うにふさわしい素晴らしい内容となったと自負しています。

この記念誌を通じてより多くの人々がプロジェクトマネジメントへの理解と関心を広げ、共有されることを願いつつ、今後もPMI日本支部は日本におけるプロジェクトマネジメントの発展と普及に努めていくことをお約束し、編集後記に代えさせていただきます。

一般社団法人 PMI日本支部 創立25周年記念誌 PMI Japan Chapter 25th Anniversary Book - A celebration of our history

2023年10月23日 発行

編集：PMI日本支部 25周年記念誌編集プロジェクト

発行：一般社団法人 PMI日本支部

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

<https://www.PMI-japan.org/>

制作協力：イデコ株式会社

©PMI Japan Chapter, 2023

本書は著作権上の保護を受けています。本書の一部または全部について、一般社団法人 PMI日本支部から文書による許諾を得ずに、いかなる方法においても無断で複写、複製することは禁じられています。本書のお問い合わせについては、一般社団法人 PMI日本支部 事務局(info@pmi-japan.org)までご連絡下さい。